

3 ことば（日本語学習）

(1) 日本語に関して困ること

◇日本語に関して困ることが「ある」は6割近い

◇困る内容としては、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」が5割弱で最も高く、「役所や病院での説明を理解すること」が4割台半ばを超える

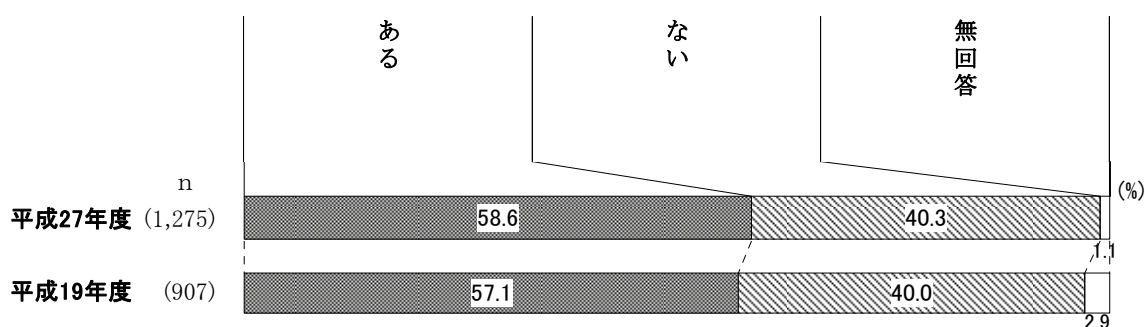
問16 あなたは日本語 <small>にほんご</small> に関して困ることがありますか。(○は1つだけ) [n1,275]					
1 ある	58.6%	2 ない	40.3	(無回答)	1.1
(問16で、「1 ある」と答えた方に) 問16-1 それはどんなことですか。(○はいくつでも) [n=747]					
1 ひらがな・カタカナ <small>かたかな</small> を読むこと	11.1%	5 日本語のテレビやラジオのニュース <small>にほんご てれび らじお にゅーす</small> を見ること・聞くこと	37.3		
2 ひらがな・カタカナ <small>かたかな</small> を書くこと	11.2	6 日本語の新聞やお知らせ <small>にほんご しんぶん し</small> を読むこと	49.3		
3 簡単な漢字 <small>かんたん かんじ</small> の読み書き	27.7	7 役所や病院 <small>やくしょ びょういん</small> での説明を理解 <small>せつめい りかい</small> すること	46.6		
4 日常会話 <small>にちじょうかいわ</small>	37.6	8 その他	11.1		
			(無回答)	0.5	

①日本語に関して困ること

日本語に関して困ることが「ある」(58.6%)は6割近く、「ない」(40.3%)よりも高くなっている。

平成19年度と比較しても、特に大きな違いはみられない。(図表3-1)

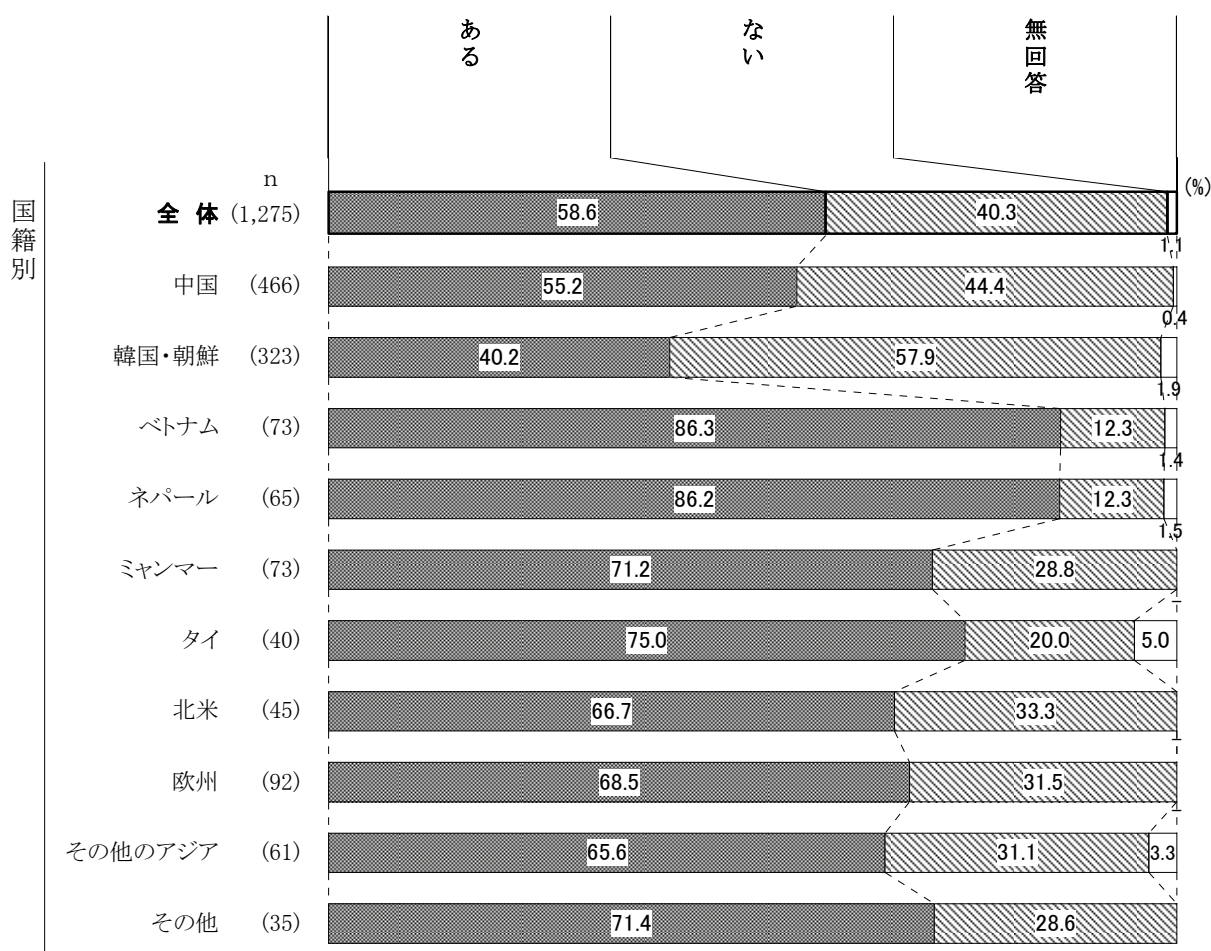
<図表3-1>日本語に関して困ること／平成19年度との比較



【国籍別】

“韓国・朝鮮”を除いて、「ある」の方が「ない」よりも高くなっているが、中でも“ベトナム”と“ネパール”で8割台半ばを超え高い。(図表3-2)

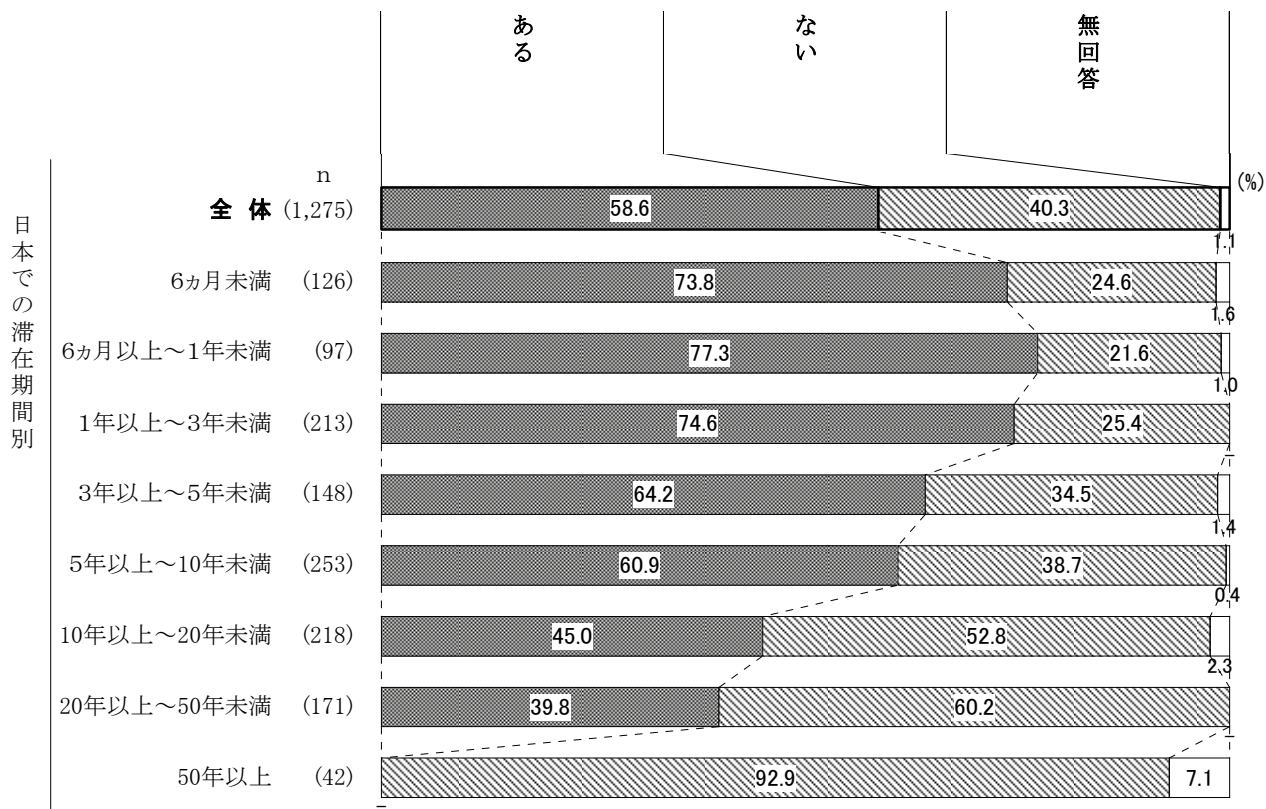
<図表3-2>日本語に関して困ること《国籍別》



【日本での滞在期間別】

「ある」は、“6ヵ月未満”から“1年以上～3年未満”で7割台半ば前後となっており、おおむね滞在期間が長いほど低くなる。(図表3-3)

<図表3-3>日本語に関して困ること《日本での滞在期間別》

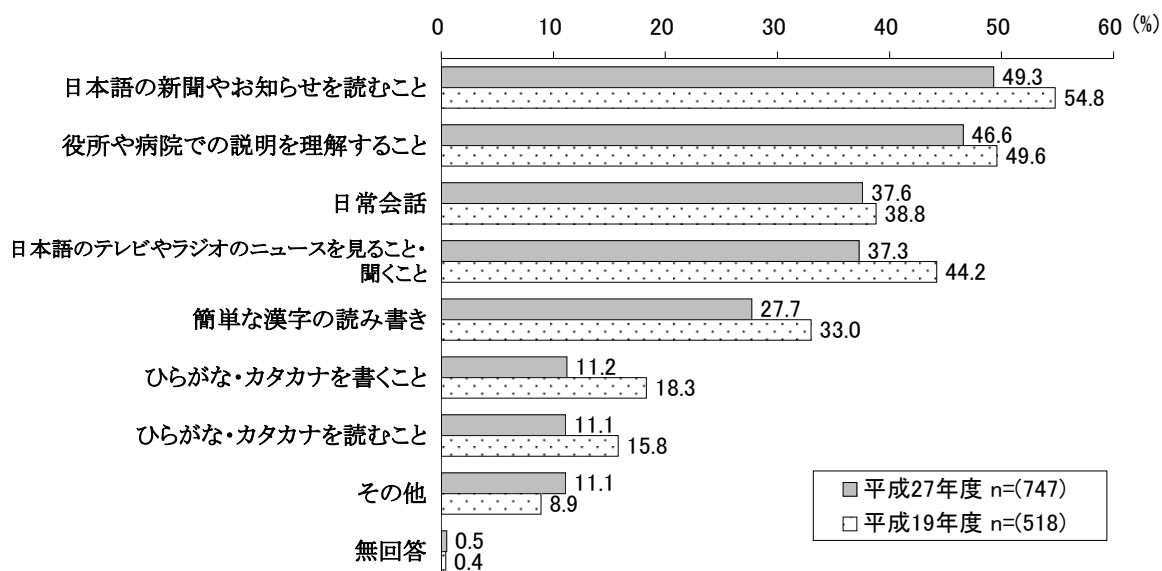


②困っている内容

問16で、日本語に関して困ることが「ある」と回答した人に、困っている内容を聞いた。その結果、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」(49.3%)が5割弱で最も高くなっている。次いで「役所や病院での説明を理解すること」(46.6%)は4割台半ばを超え、「日常会話」(37.6%)は3割台半ばを超える。

平成19年度と比較すると、多くの項目で減少しており、特に、「ひらがな・カタカナを書くこと」は7.1ポイント、「日本語のテレビやラジオのニュースを見ること・聞くこと」は6.9ポイント減少している。(図表3-4)

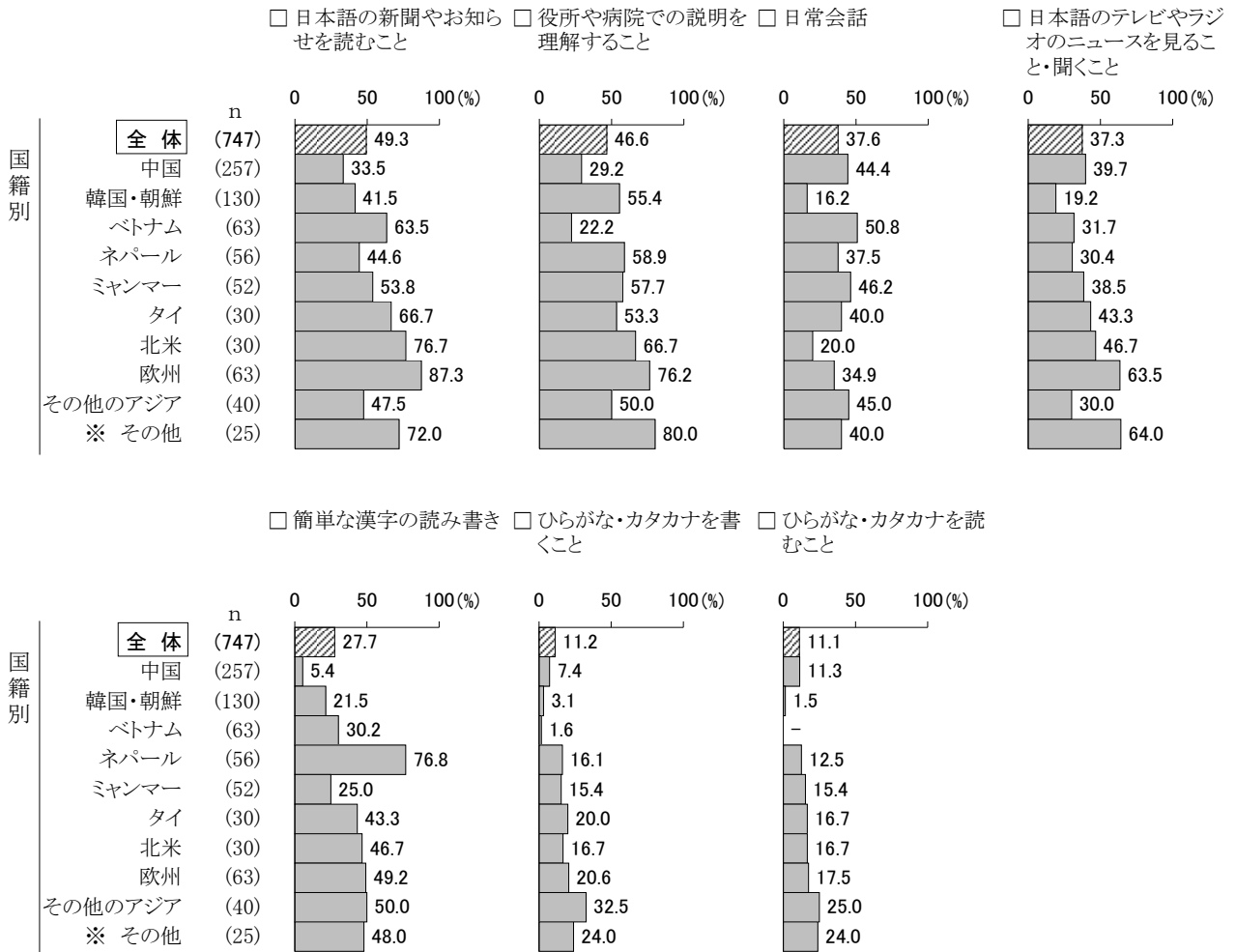
<図表3-4>困っている内容(複数回答) / 平成19年度との比較



【国籍別】

「日本語の新聞やお知らせを読むこと」は、“欧州”で8割台半ばを超え、次いで“北米”で7割台半ばを超える。「役所や病院での説明を理解すること」でも、これらの2国籍は高く、“欧州”で7割台半ばを超え、“北米”で6割台半ばを超える。また、「日本語のテレビやラジオのニュースを見ること・聞くこと」でも、“北米”は6割台半ば近い。このほか、「日常会話」は“ベトナム”で約5割、「簡単な漢字の読み書き」は“ネパール”で7割台半ばを超え、高くなっている。(図表3-5)

<図表3-5>困っている内容《国籍別》

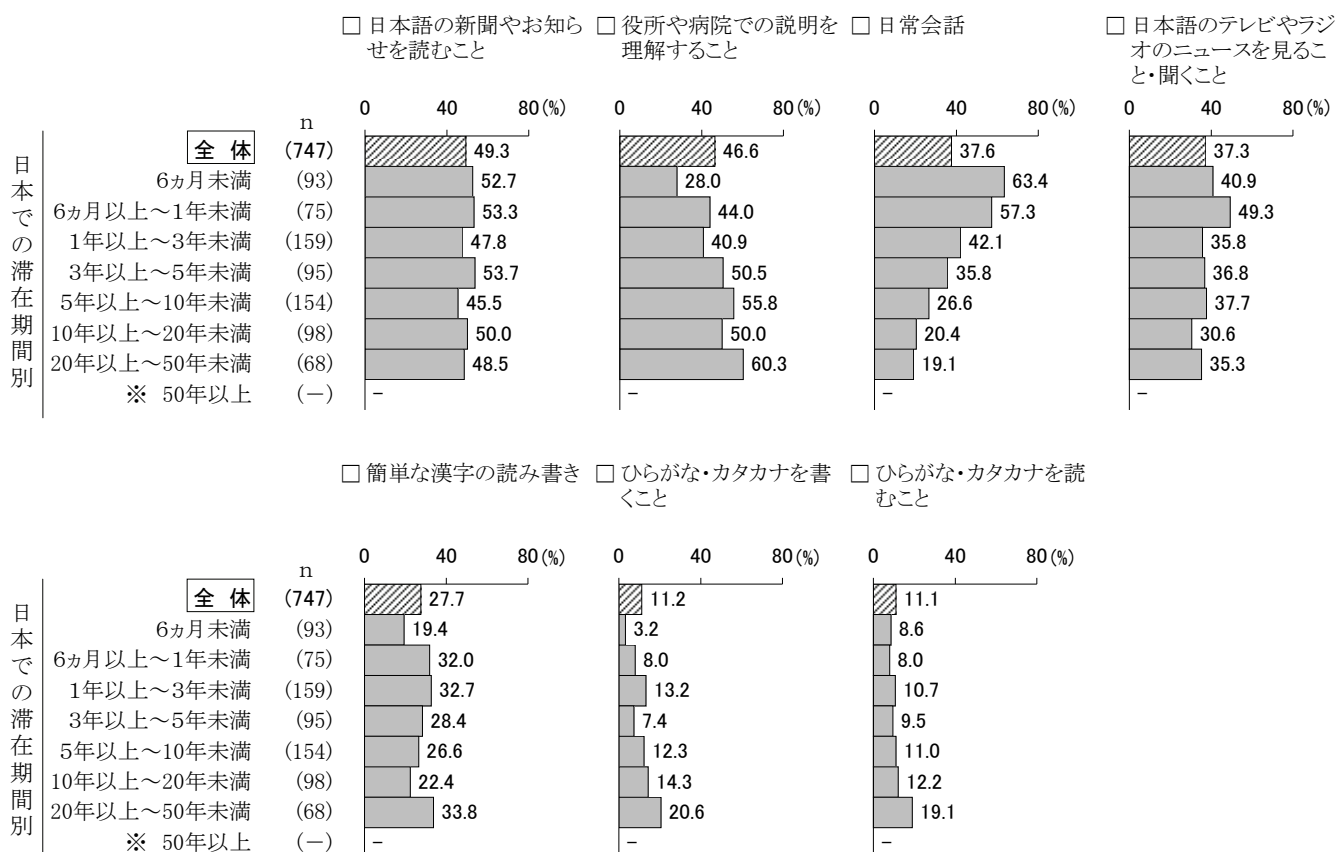


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【日本での滞在期間別】

「日本語の新聞やお知らせを読むこと」は多くの滞在期間で5割前後とおおむね並び、「役所や病院での説明を理解すること」は、“20年以上～50年未満”で約6割と最も高くなっている。「日常会話」は“6ヵ月未満”で6割台半ば近くと最も高くなっており、滞在期間が長いほど低くなる。また、「日本語のテレビやラジオのニュースを見ること・聞くこと」は、“6ヵ月以上～1年未満”で5割弱と最も高くなっている。(図表3-6)

<図表3-6>困っている内容《日本での滞在期間別》



(2) 日本語の学習意向

◇日本語を「現在学んでいる」が4割台半ばを超え、「学びたい」は3割台半ば近い

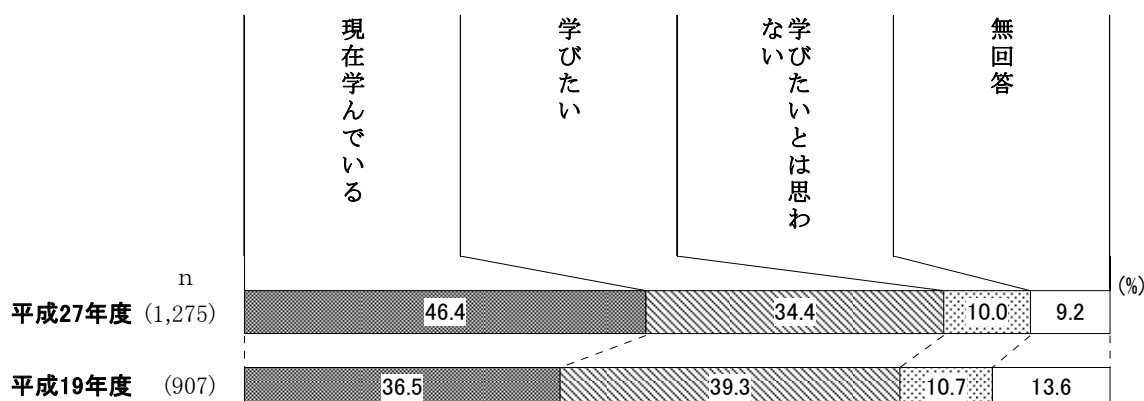
◇学んでいる（学びたい）方法では、「日本語学校」が3割台半ば近くで最も高い

<p>問17 あなたは、今後、日本語を学びたいと思いますか。日本語に関して困ることがある方もない方もお答えください。（○は1つだけ）</p> <p>[n=1,275]</p>					
1	現在学んでいる	46.4%	3	学びたいとは思わない	10.0
2	学びたい	34.4		(無回答)	9.2
<p>(問17で、「1」か「2」と答えた方に)</p> <p>問17-1 どのような方法で学んでいますか。また、どのような方法で学びたいですか。（○はいくつでも）</p> <p>[n=1,030]</p>					
1	テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、		6	家庭教師に習う	5.3
	テレビ・新聞などを利用	27.2%	7	家族に教えてもらう	10.3
2	インターネットを利用	28.1	8	友人に教えてもらう	16.7
3	ボランティアなどによる日本語教室	16.4	9	職場で同僚に教えてもらう	16.6
4	日本語学校	34.3	10	その他	8.5
5	大学などの講座やコース	13.7		(無回答)	1.3
<p>(問17で、「3 学びたいとは思わない」と答えた方に)</p> <p>問17-2 日本語を学びたくない理由を教えてください。自由に記入してください。</p>					

①日本語の学習意向

日本語の学習意向としては、「現在学んでいる」(46.4%)が4割台半ばを超える。なお、「学びたい」(34.4%)は3割台半ば近く、一方で「学びたいとは思わない」(10.0%)は1割である。(図表3-7)

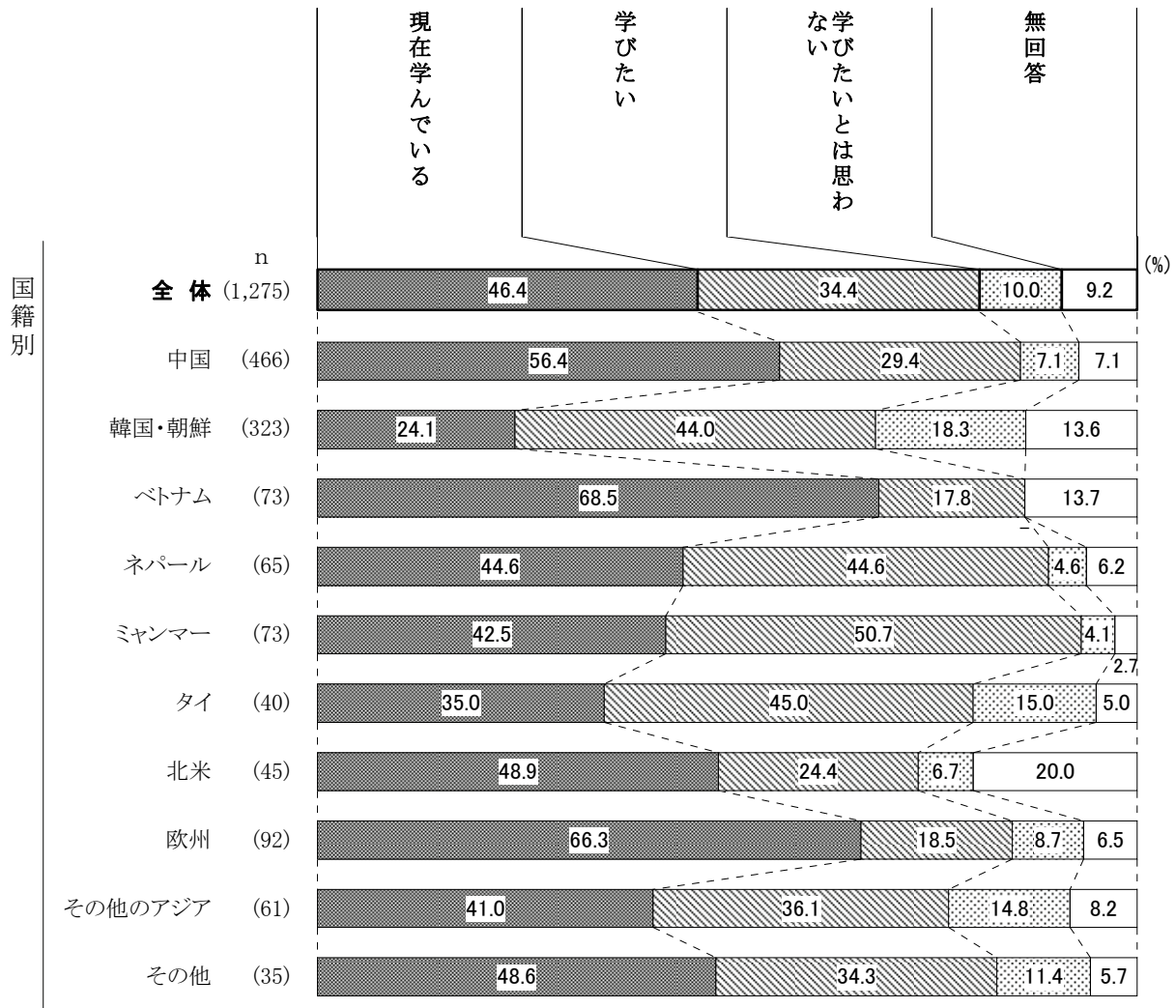
<図表3-7>日本語の学習意向／平成19年度との比較



【国籍別】

「現在学んでいる」は、“ベトナム”で7割近くと最も高く、次いで“欧州”で6割台半ばを超え、“中国”で5割台半ばを超える。「学びたい」は、“ミャンマー”で約5割と最も高く、次いで“タイ”で4割台半ば、“ネパール”と“韓国・朝鮮”で4割台半ば近い。(図表3-8)

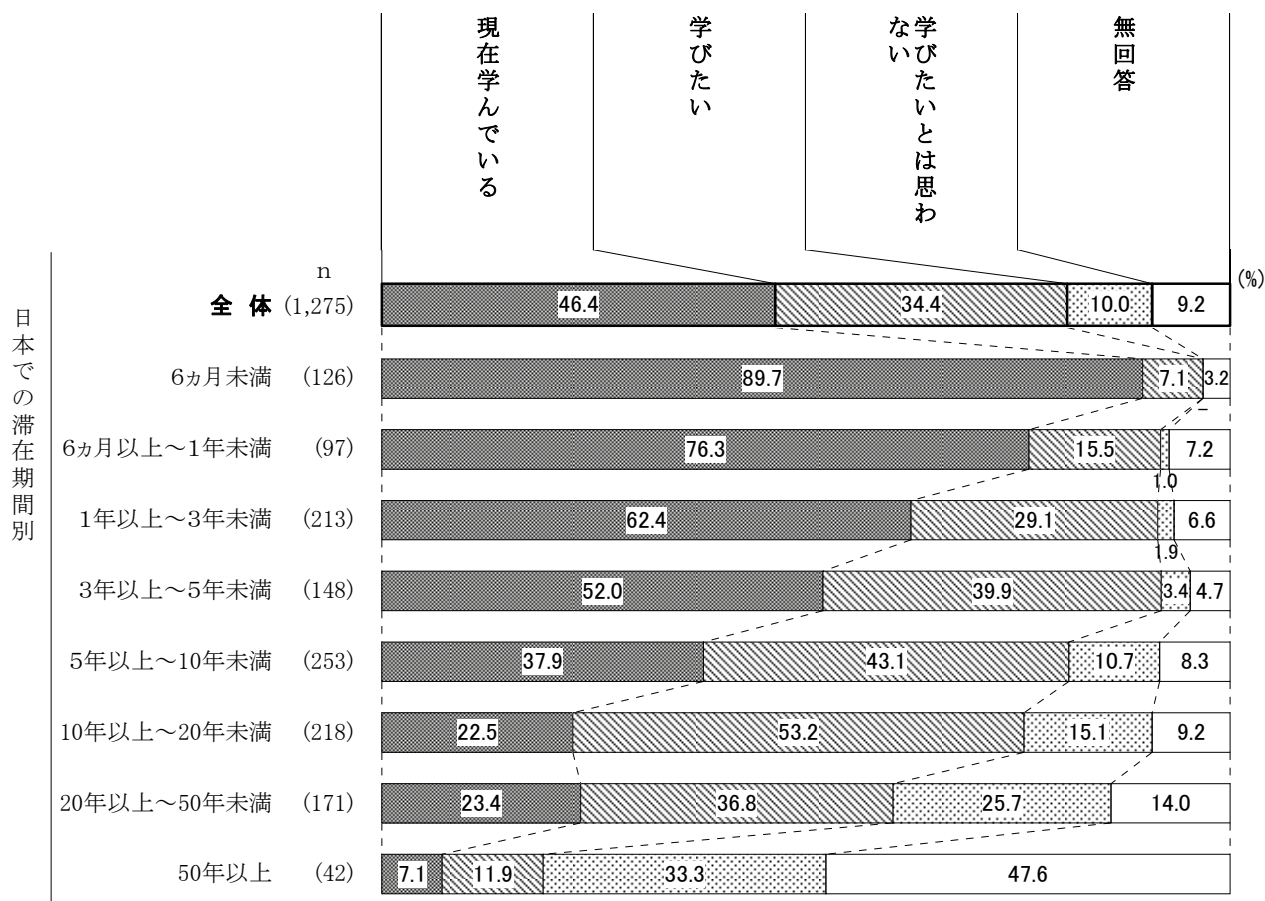
<図表3-8>日本語の学習意向《国籍別》



【日本での滞在期間別】

「現在学んでいる」は、“6ヵ月未満”で9割弱となっており、滞在期間が長いほど低くなる。また、「学びたい」は、“10年以上～20年未満”で5割台半ば近くと最も高く、次いで“5年以上～10年未満”で4割台半ば近い。(図表3-9)

＜図表3-9＞日本語の学習意向《日本での滞在期間別》

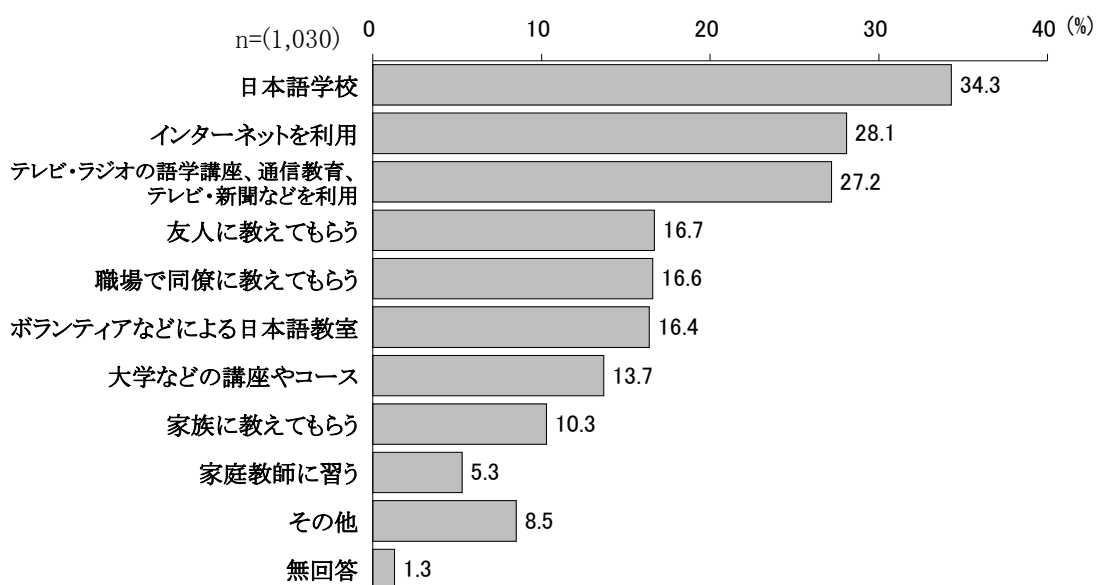


②日本語を学んでいる方法及び学びたい方法

問17で、「現在学んでいる」か「学びたい」と回答した人に、日本語を学んでいる方法を聞いたところ、「日本語学校」(34.3%)が3割台半ば近くで最も高くなっている。次いで「インターネットを利用」(28.1%)は3割近く、「テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、テレビ・新聞などを利用」(27.2%)は2割台半ばを超える。(図表3-10)

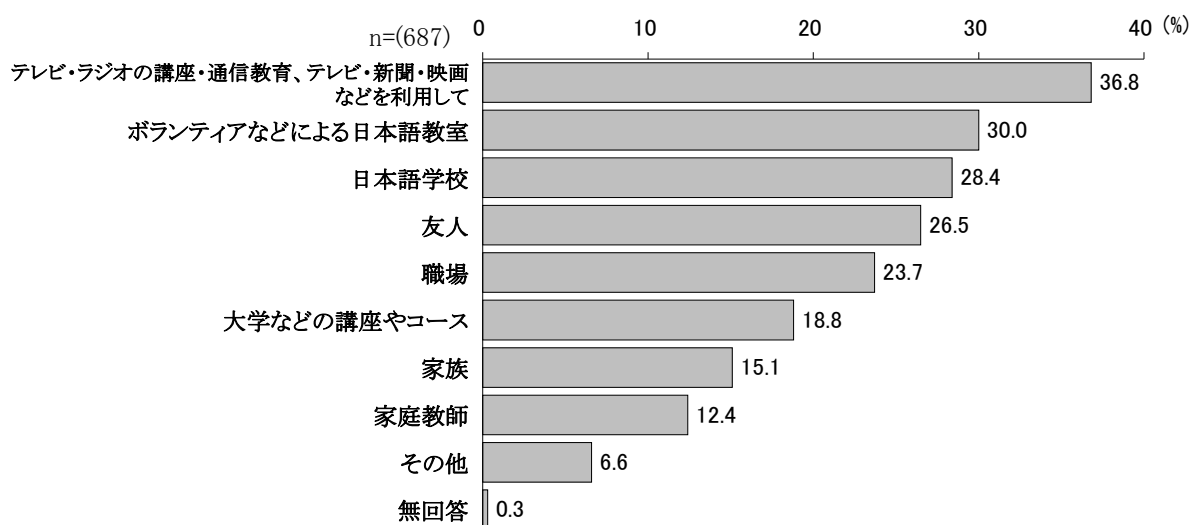
平成19年度にも同様の設問を聞いているが、項目の内容を変更しているため、参考として掲載する。(図表3-11)

<図表3-10>日本語を学んでいる方法及び学びたい方法(複数回答)



<図表3-11> (参考) 平成19年度

問 どのような方法で学んでいますか。また、学びたい方はどのような方法で学びたいですか。
(○はいくつでも)



【日本語の学習意向の回答別（問17の回答別）】

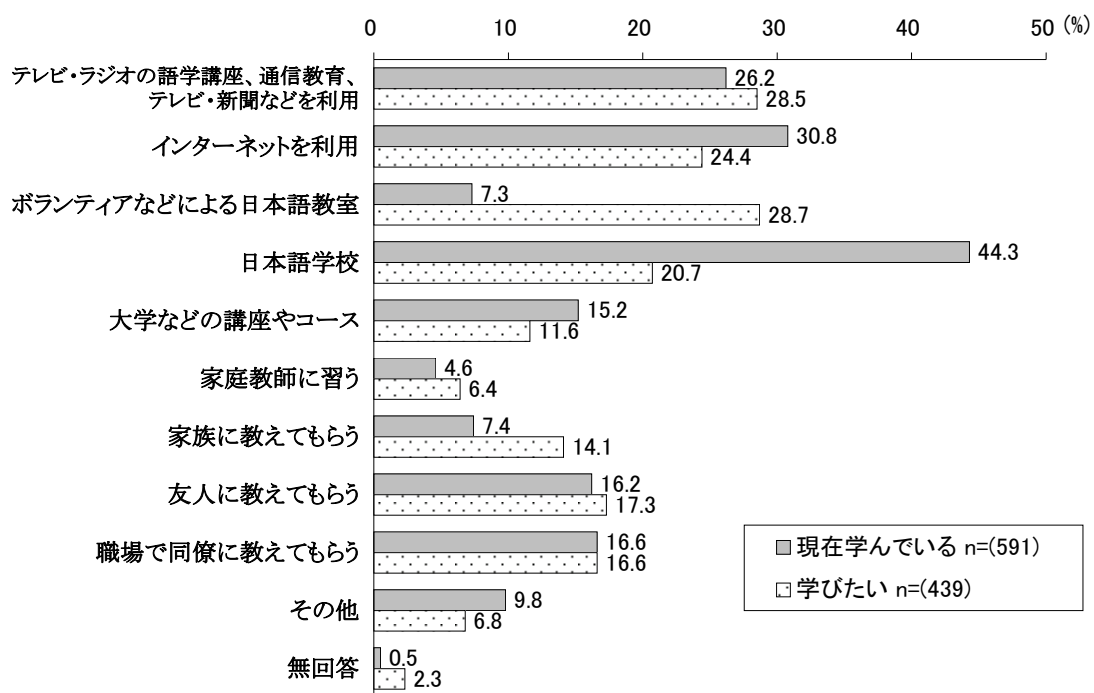
この設問は、問17で「現在学んでいる」か「学びたい」と回答した人に聞いたものである。現在学んでいる人と学びたい人の学習方法を細かくみるために、問17の回答別にクロス集計を行った。

現在学んでいる人では、「日本語学校」（44.3%）が4割台半ば近く最も高く、次いで「インターネットを利用」（30.8%）が約3割、「テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、テレビ・新聞などを利用」（26.2%）が2割台半ばを超える。

一方、学びたい人では、「ボランティアなどによる日本語教室」（28.7%）と「テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、テレビ・新聞などを利用」（28.5%）が3割近く並んでいる。

現在学んでいる人と学びたい人を比較すると、「日本語学校」は現在学んでいる人で23.6ポイント高く、「ボランティアなどによる日本語教室」は学びたい人で21.4ポイント高くなっている。また、「インターネットを利用」は現在学んでいる人で6.4ポイント高く、「家族に教えてもらう」は学びたい人で6.7ポイント高い。（図表3-12）

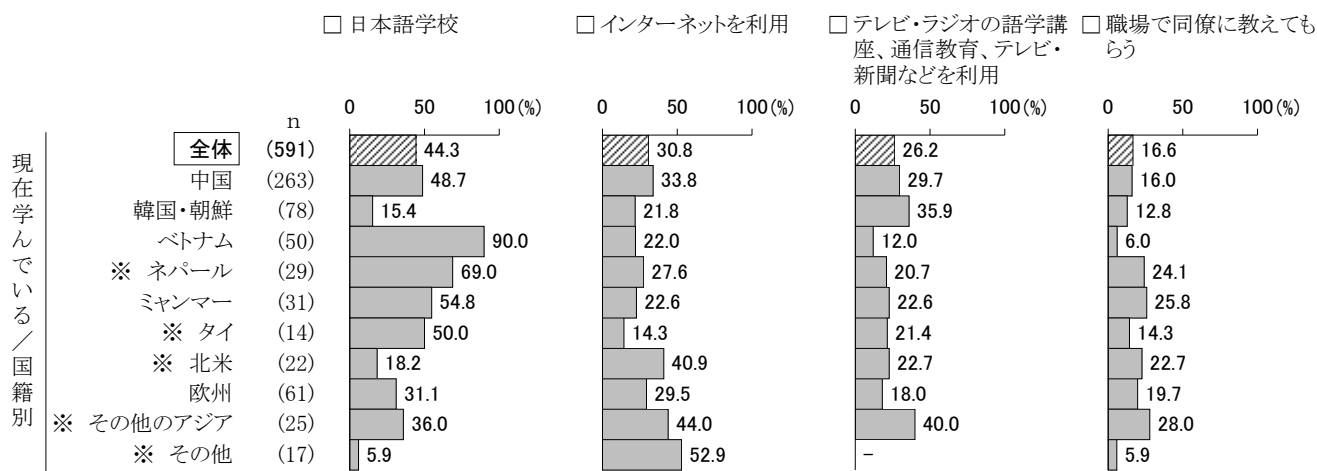
<図表3-12> 現在学んでいる及び学びたい方法 《日本語の学習意向の回答別》



【日本語の学習意向の回答・国籍別】

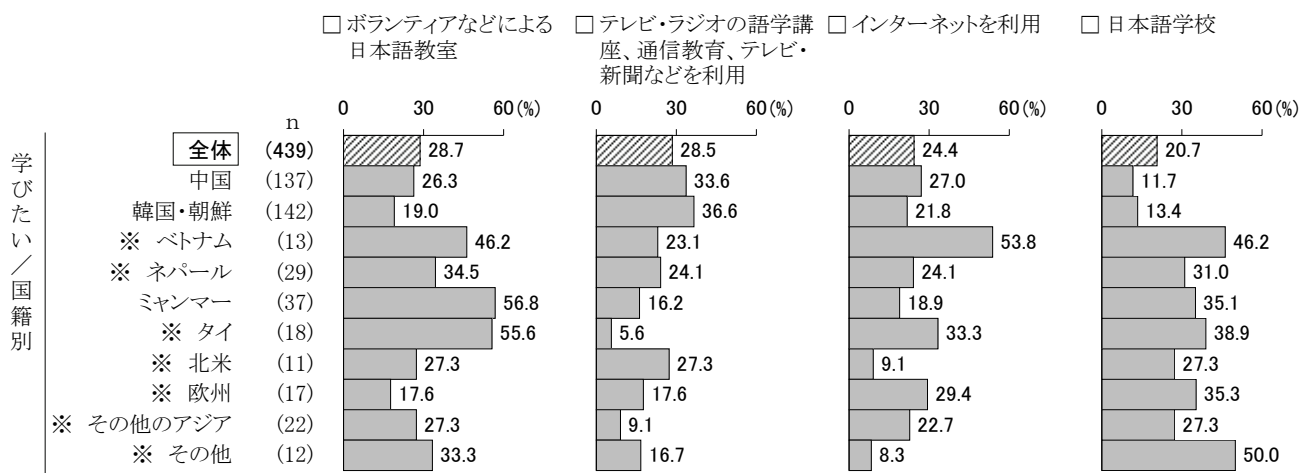
日本語の学習意向の回答別に、上位4項目について国籍別でみた結果については、nが30人以上確保できた国籍が限られていることから、参考として掲載する。(図表3-13、図表3-14)

＜図表3-13＞現在学んでいる及び学びたい方法《現在学んでいる人の国籍別》(上位4項目)



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

＜図表3-14＞現在学んでいる及び学びたい方法《学びたい人の国籍別》(上位4項目)



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【日本語の学習意向の回答・滞在期間別】

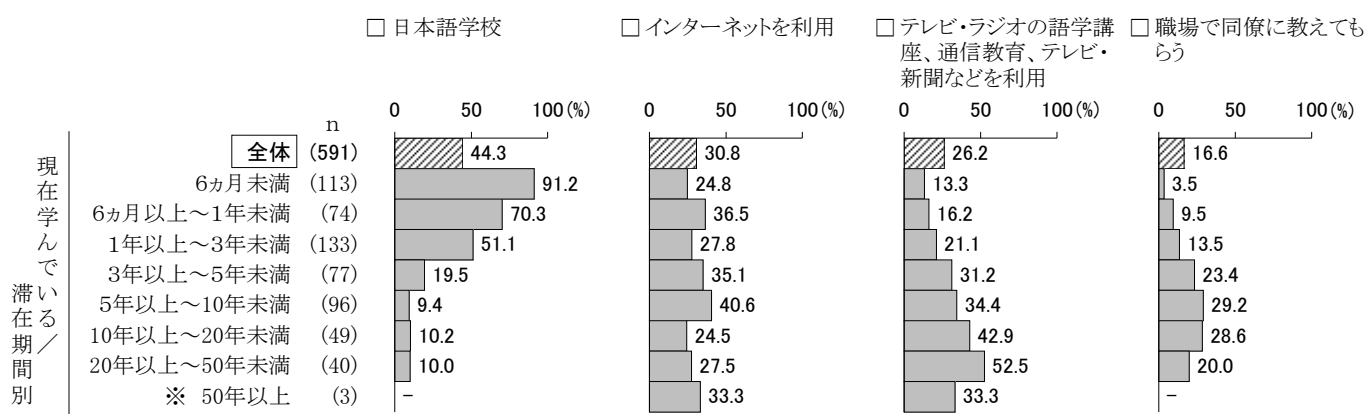
日本語の学習意向の回答別に、上位4項目について滞在期間別でみることにする。

現在学んでいる人では、「日本語学校」は“6ヵ月未満”で9割を超え、おおむね滞在期間が長いほど低くなる。「インターネットを利用」は“5年以上～10年未満”で約4割と最も高く、次いで“6ヵ月以上～1年未満”で3割台半ばを超える。また、「テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、テレビ・新聞などを利用」と「職場で同僚に教えてもらう」は、おおむね滞在期間が長いほど高くなっている。

(図表3-15)

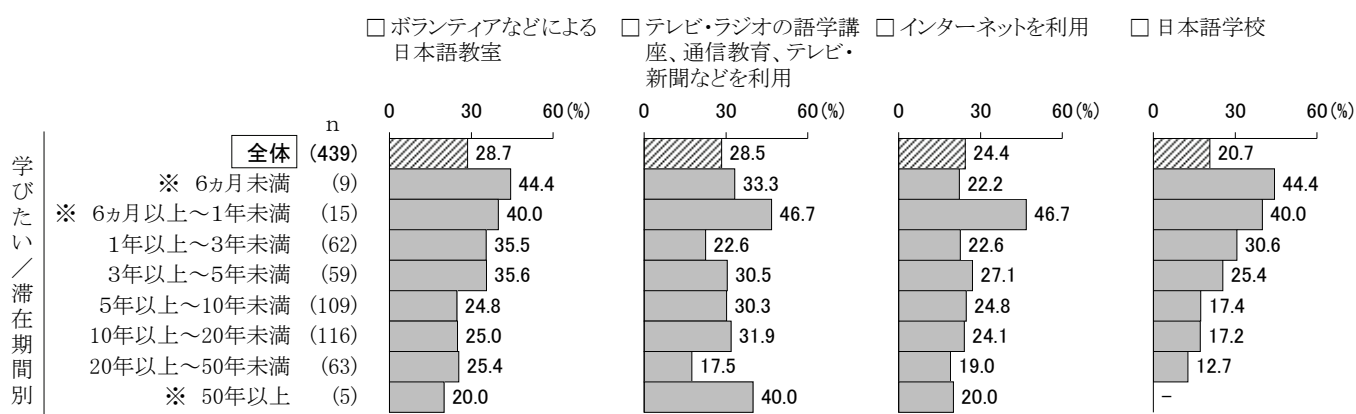
学びたい人では、「ボランティアなどによる日本語教室」は“1年以上～3年未満”と“3年以上～5年未満”で3割台半ばとなっている。また、それらの滞在期間は、「日本語学校」でも高く、滞在期間が長いほど低くなる。(図表3-16)

<図表3-15> 現在学んでいる及び学びたい方法《現在学んでいる人の滞在期間別》(上位4項目)



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

<図表3-16> 現在学んでいる及び学びたい方法《学びたい人の滞在期間別》(上位4項目)



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

③日本語を学びたくない理由

日本語を学びたくないと答えた方に、その理由を自由記述でたずねたところ、次のような意見があげられた。

ここでは、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として分けて分類し、主なものを掲載する。

○不便を感じないから、困っていないから	64件
○必要ないから	11件
○日本で生まれ育ったから	7件
○歳をとっているから	4件
○難しいから	4件

4 災害時・緊急時の対応

(1) 災害時の準備

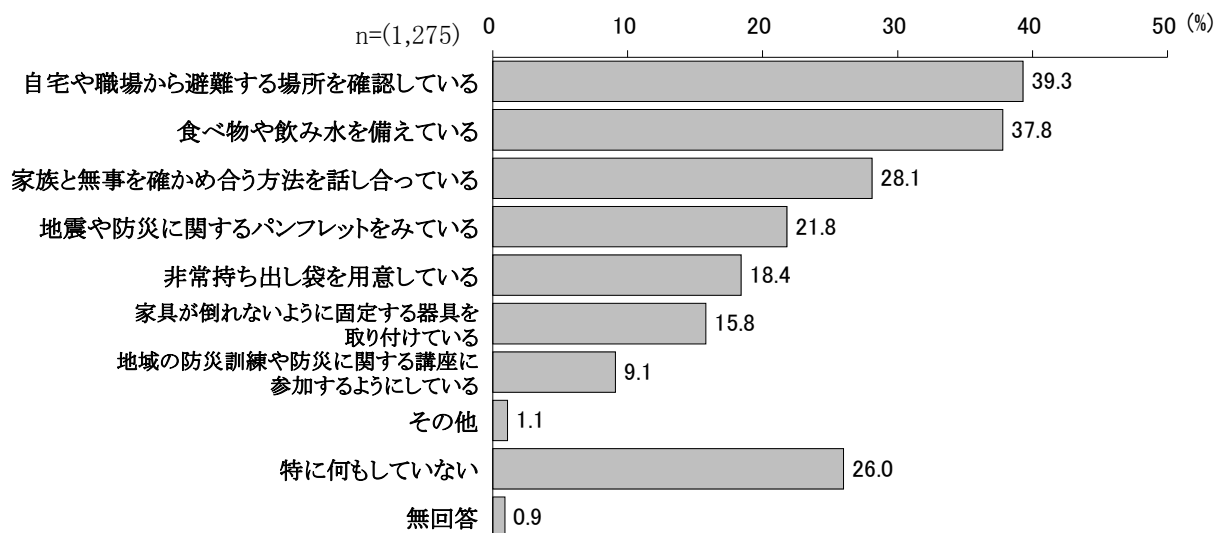
- ◇「自宅や職場から避難する場所を確認している」が4割弱で最も高く、「食べ物や飲み水を備えている」が3割台半ばを超える
- ◇「特に何もしていない」理由は、「何を準備すればいいかわからないから」が約5割で最も高い

問18	地震などの災害が起きた時のために、どのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)	
	[n=1,275]	
1	家族と無事を確かめ合う方法を話し合っている	28.1%
2	自宅や職場から避難する場所を確認している	39.3
3	食べ物や飲み水を備えている	37.8
4	非常持ち出し袋を用意している	18.4
5	地震や防災に関するパンフレットをみている	21.8
6	家具が倒れないように固定する器具を取り付けている	15.8
7	地域の防災訓練や防災に関する講座に参加するようにしている	9.1
8	その他	1.1
9	特に何もしていない	26.0
	(無回答)	0.9
<hr/>		
	(問18で、「9 特に何もしていない」と答えた方に)	
問18-1	何もしていないのはなぜですか。(〇はいくつでも)	
	[n=331]	
1	考えたことがなかったから	23.0%
2	何を準備すればいいかわからないから	50.8
3	準備する時間やお金がないから	15.4
4	防災訓練や講座の情報が入らないから	22.1
5	何も起こらないと思うから	19.6
6	その他	6.6

①災害時の準備

災害時の準備としては、「自宅や職場から避難する場所を確認している」(39.3%)が4割弱で最も高く、次いで「食べ物や飲み水を備えている」(37.8%)が3割台半ばを超え、「家族と無事を確かめ合う方法を話し合っている」(28.1%)が3割近い。(図表4-1)

<図表4-1>災害時の準備 (複数回答)

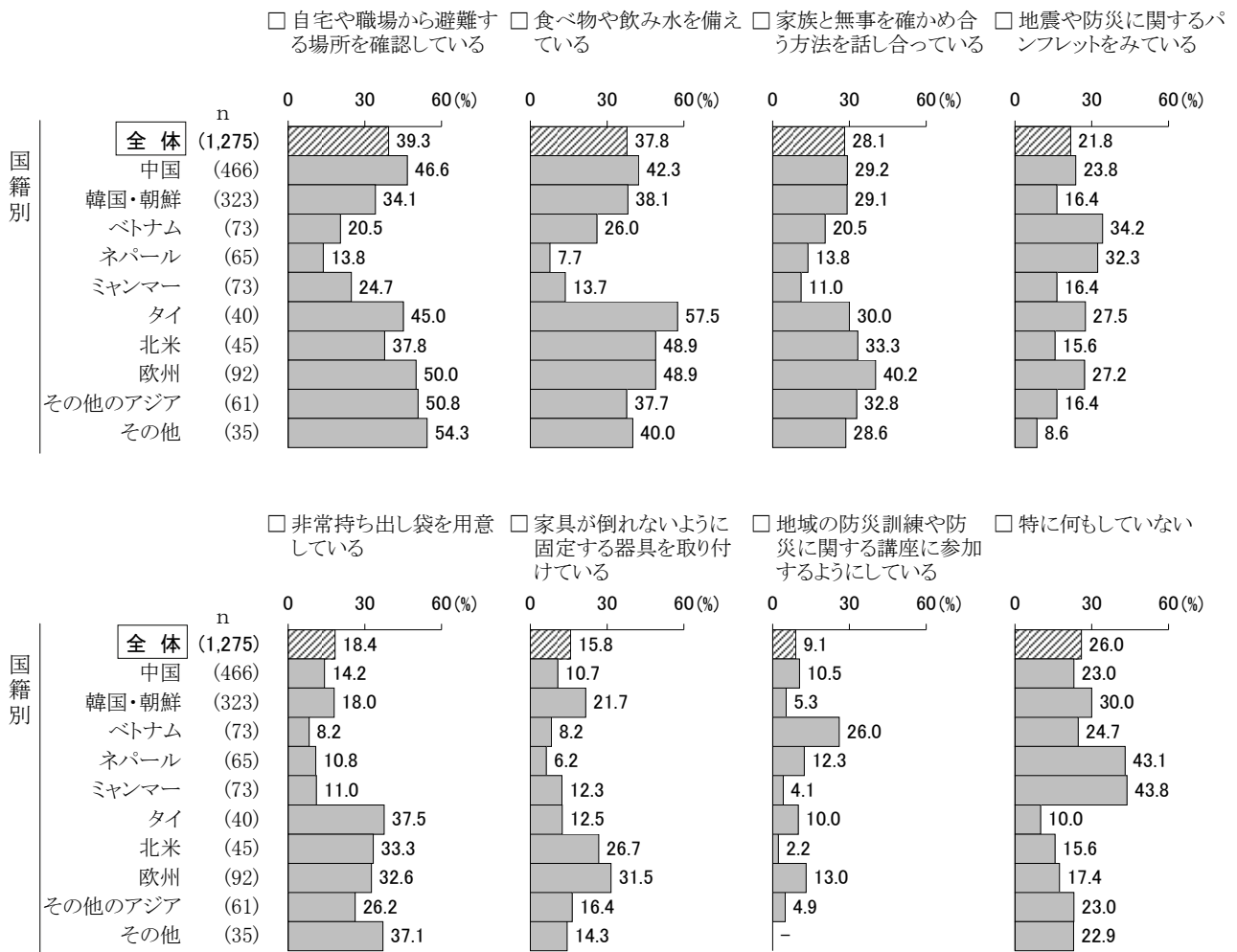


【国籍別】

「地震や防災に関するパンフレットをみている」は、“ベトナム”で3割台半ば、“ネパール”は3割強と高い。また、「地域の防災訓練や防災に関する講座に参加するようにしている」でも、“ベトナム”は2割台半ばを超え高くなっている。

一方、「特に何もしていない」は、“ネパール”と“ミャンマー”で4割台半ば近い。「自宅や職場から避難する場所を確認している」、「食べ物や飲み水を備えている」、「家族と無事を確かめ合う方法をお話している」は、“ベトナム”、“ネパール”、“ミャンマー”で低くなっている。(図表4-2)

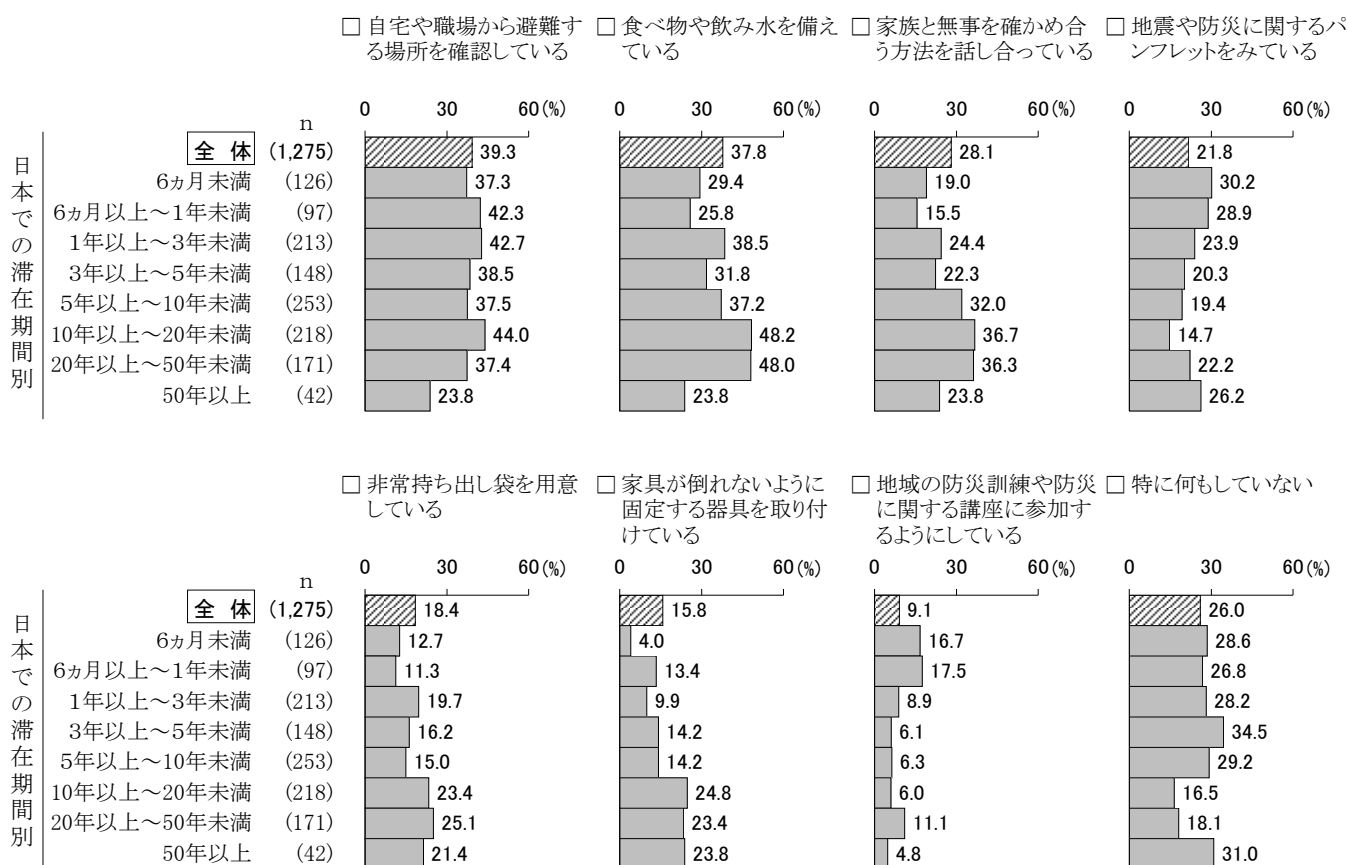
<図表4-2>災害時の準備《国籍別》



【日本での滞在期間別】

「自宅や職場から避難する場所を確認している」、「食べ物や飲み水を備えている」、「家族と無事を確かめ合う方法話し合っている」は、「50年以上」で2割台半ば近くと低くなっている。また、「地震や防災に関するパンフレットをみている」は、「6ヵ月未満」で約3割、「6ヵ月以上～1年未満」で3割近くになっており、これら2つの滞在期間は「地域の防災訓練や防災に関する講座に参加するようにしている」でも1割台半ばを超え、それ以外の滞在期間に比べて高くなっている。一方、「特に何もしていない」は、「3年以上～5年未満」で3割台半ば近くと最も高くなっている。（図表4-3）

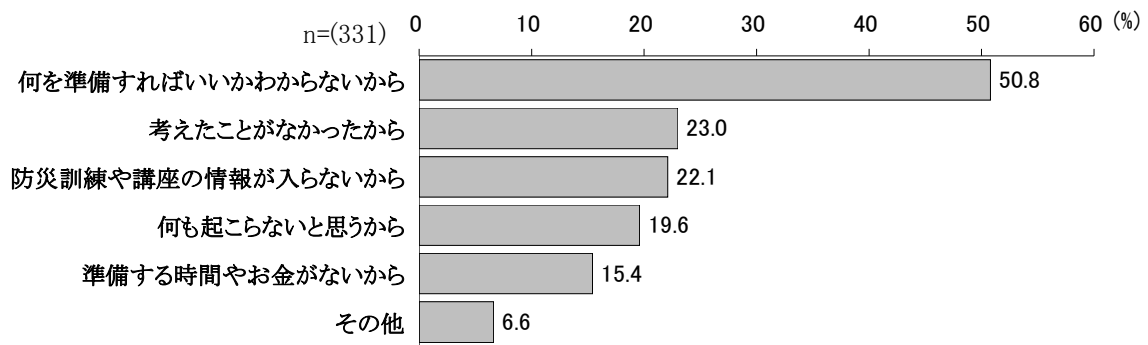
<図表4-3>災害時の準備《日本での滞在期間別》



②災害時の準備をしていない理由

問18で災害時の準備を「特に何もしていない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「何を準備すればいいかわからないから」(50.8%)が約5割で最も高くなっている。次いで「考えたことがなかったから」(23.0%)、「防災訓練や講座の情報が入らないから」(22.1%)、「何も起こらないと思うから」(19.6%)が2割前後でおおむね並ぶ。(図表4-4)

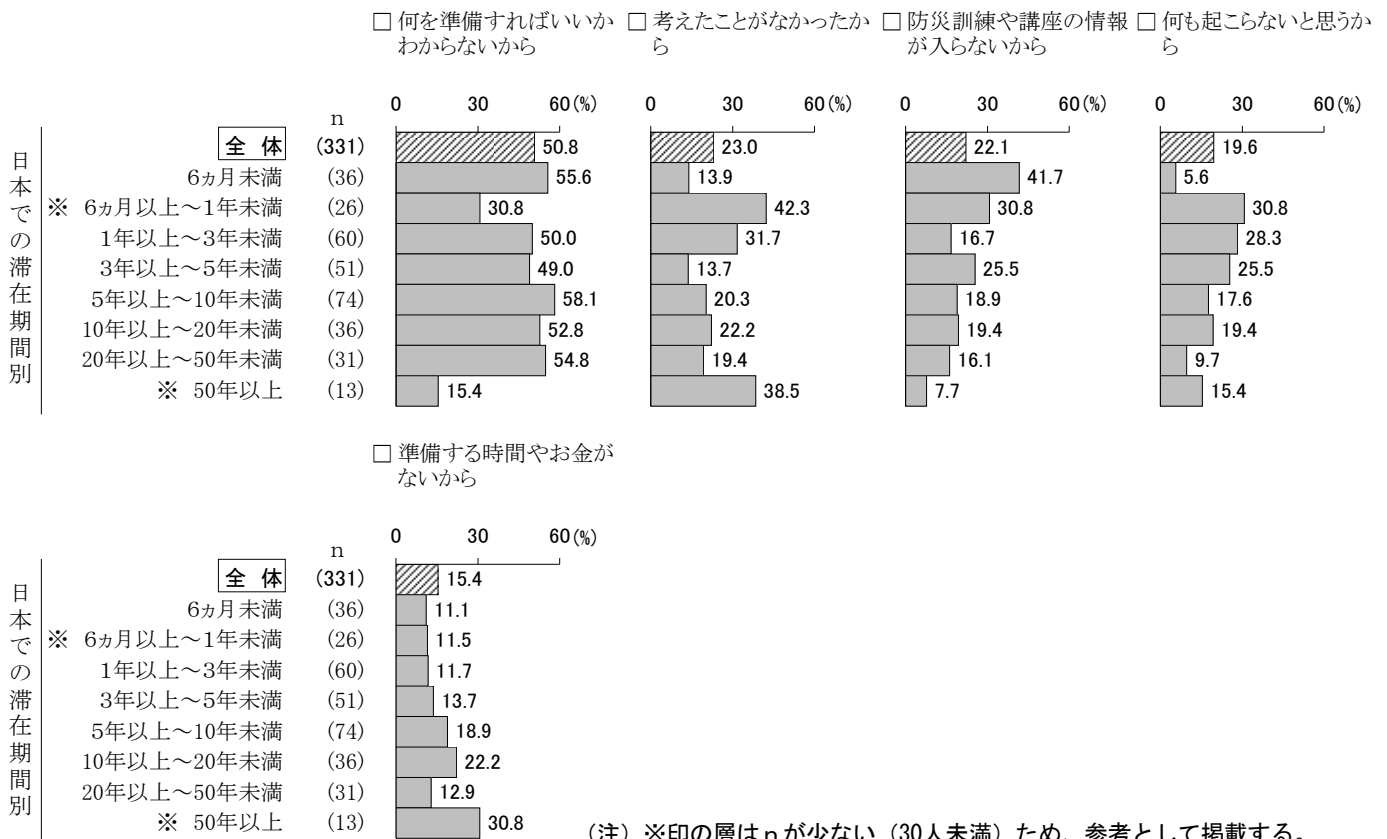
<図表4-4>災害時の準備をしていない理由(複数回答)



【日本での滞在期間別】

いずれの滞在期間でも「何を準備すればいいかわからないから」が高く、中でも“5年以上～10年未満”で6割近く最も高い。また、「防災訓練や講座の情報が入らないから」は“6ヵ月未満”で4割強と最も高くなっている。(図表4-5)

<図表4-5>災害時の準備をしていない理由《日本での滞在期間別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

(2) 防災訓練の参加状況

◇「知らないし、参加したことはない」が5割台半ばを超える

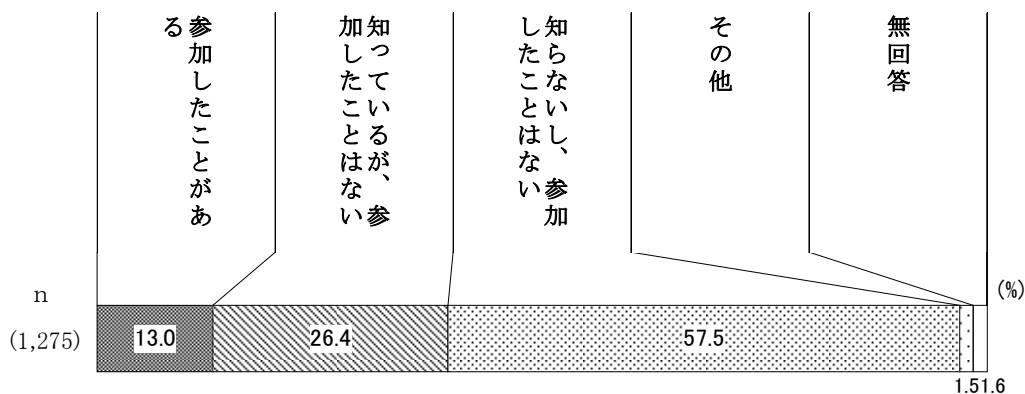
問19 地震などの災害が起きたときには、地域住民が協力して対応する必要があります。区内には住んでいる地域ごとに町会・自治会があり、災害が起きたときには避難誘導や避難所の設置などを行うほか、日頃は災害時に備えた防災訓練を実施しています。こうした防災訓練が実施されていることを知っていますか。また参加したことがありますか。(○は1つだけ)

[n = 1,275]

1	参加したことがある	13.0%	3	知らないし、参加したことはない	57.5%
2	知っているが、参加したことはない	26.4%	4	その他	1.5%
				(無回答)	1.6%

防災訓練の参加状況としては、「知らないし、参加したことはない」(57.5%)が5割台半ばを超え最も高くなっている。(図表4-6)

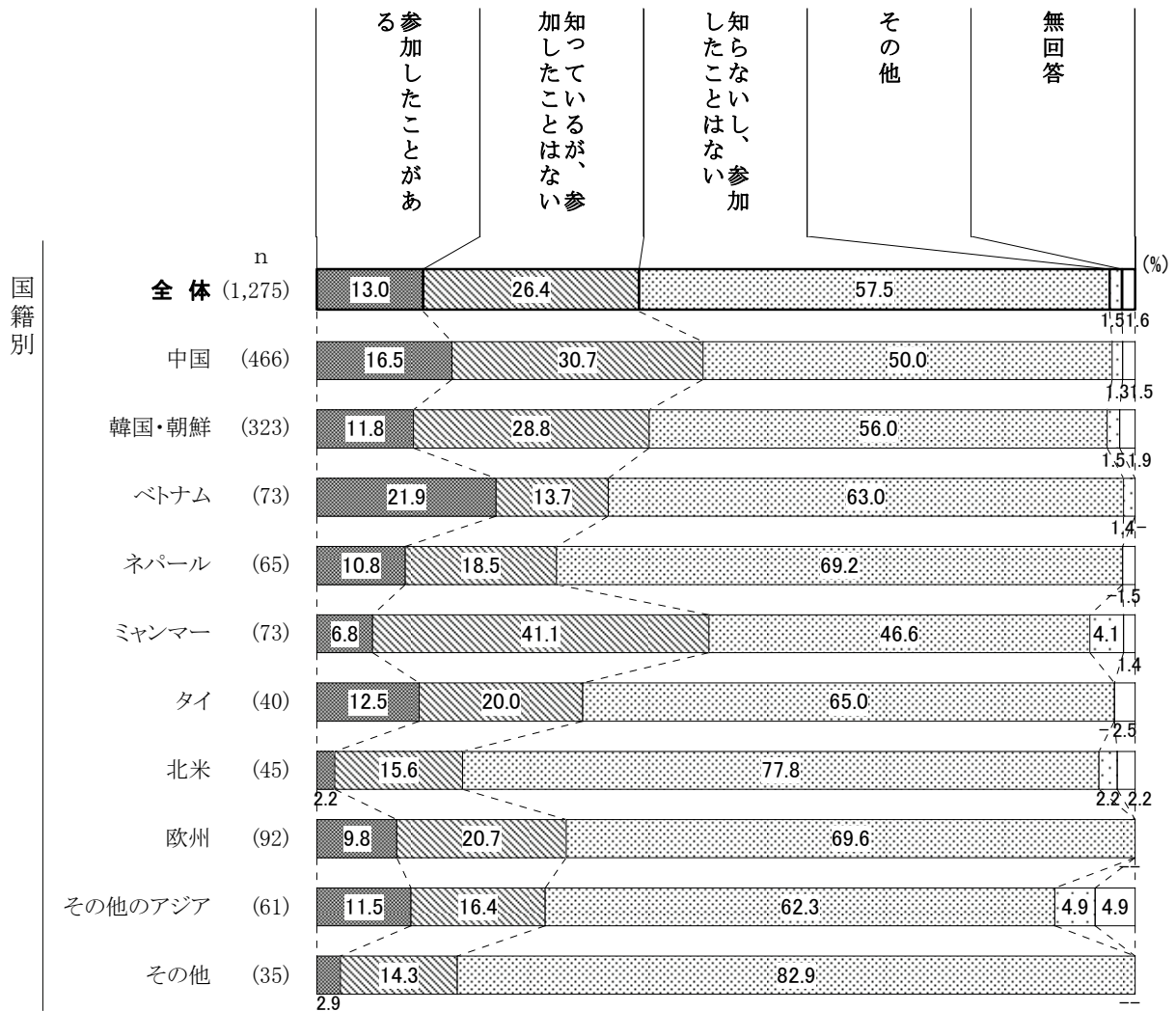
<図表4-6> 防災訓練の参加状況



【国籍別】

「参加したことがある」は、“ベトナム”で2割強と最も高く、次いで“中国”で1割台半ばを超える。「知っているが、参加したことはない」は、“ミャンマー”で4割強と最も高い。“ミャンマー”を除いて、いずれの国籍でも「知らないし、参加したことはない」は高いが、中でも“その他”で8割強と最も高く、次いで“北米”で7割台半ばを超える。(図表4-7)

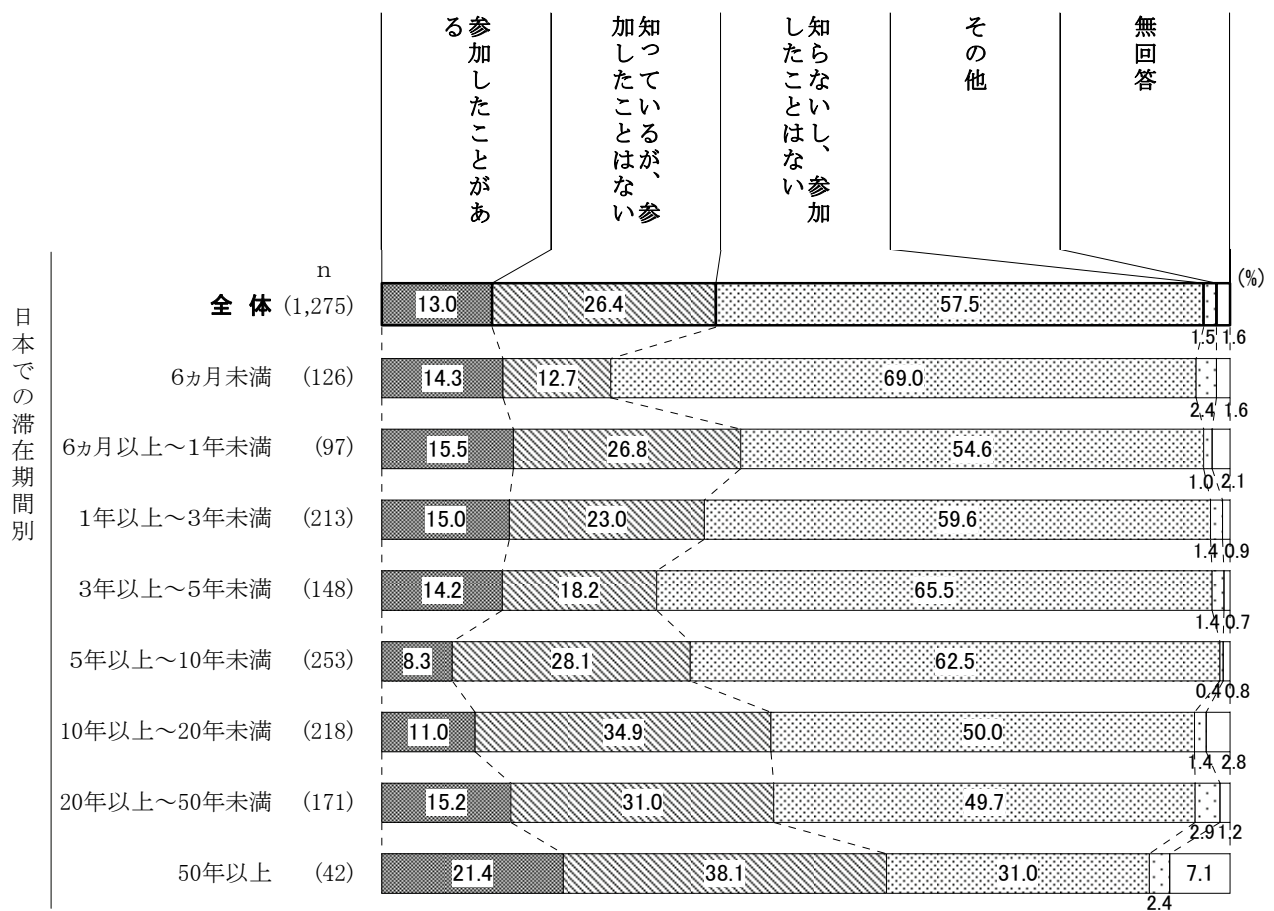
<図表4-7>防災訓練の参加状況《国籍別》



【日本での滞在期間別】

「参加したことがある」は、“50年以上”で2割強と最も高くなっているが、この滞在期間は「知っているが、参加したことはない」でも4割近くと最も高い。“20年以上～50年未満”と“50年以上”を除いて、いずれの滞在期間でも「知らないし、参加したことはない」は高いが、中でも“6ヵ月未満”で7割弱と最も高くなっている。(図表4-8)

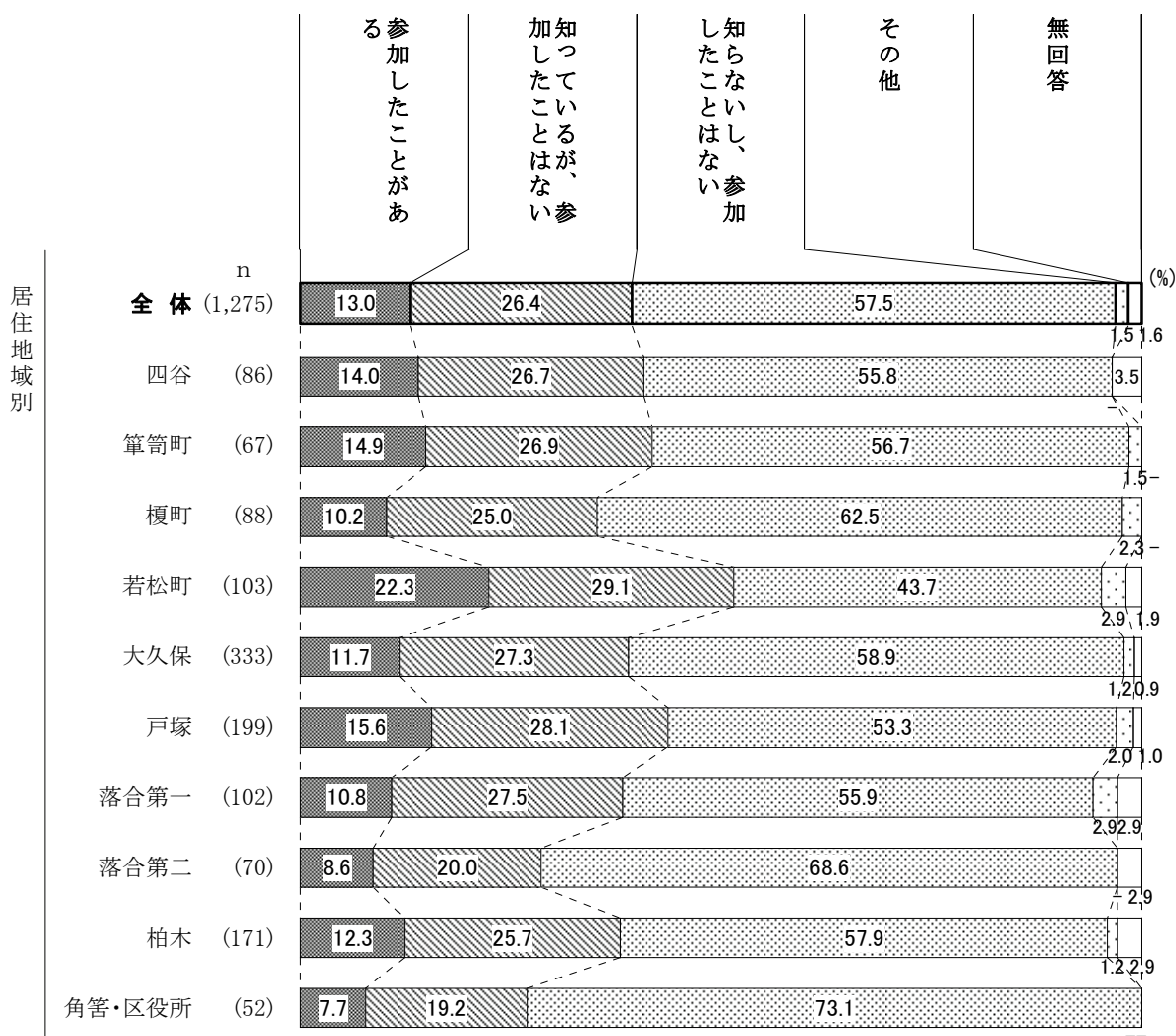
<図表4-8> 防災訓練の参加状況《日本での滞在期間別》



【居住地域別】

「参加したことがある」は、“若松町”で2割強と最も高くなっている。“若松町”を除いて、いずれの居住地域でも「知らないし、参加したことはない」は高いが、中でも“角筈・区役所”で7割台半ば近くと最も高くなっている。(図表4-9)

<図表4-9> 防災訓練の参加状況《居住地域別》



(3) 新宿区に望む災害対策

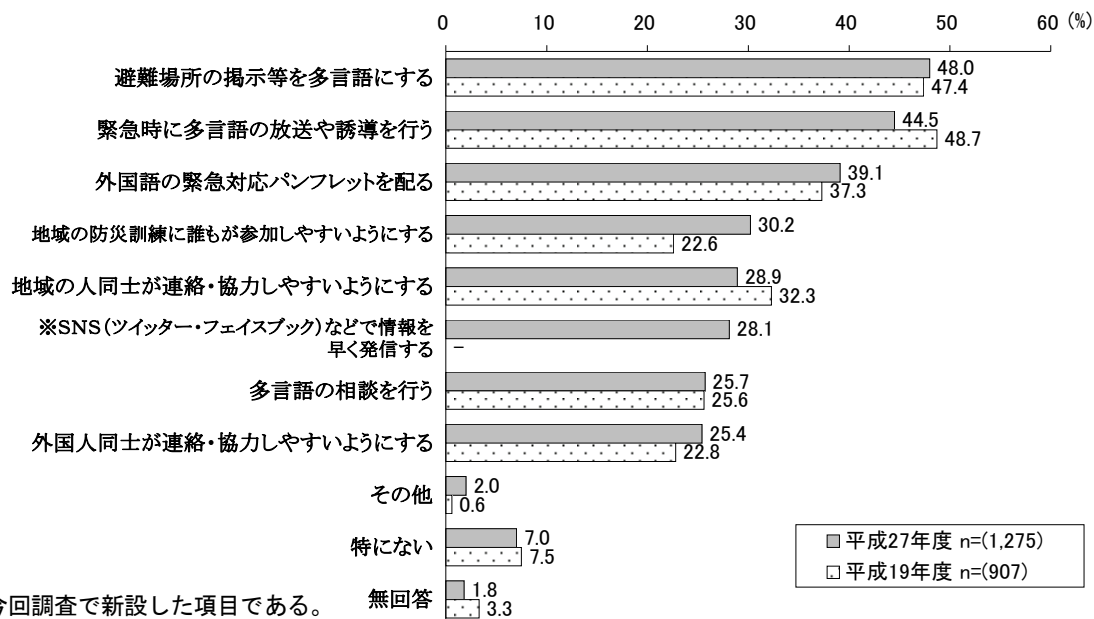
◇「避難場所の掲示等を多言語にする」が5割近くで最も高い

問20	あなたは、新宿区にどのような災害対策をしてほしいですか。(〇はいくつでも)	
	[n=1,275]	
1	避難場所の掲示等を多言語にする	48.0%
2	外国語の緊急対応パンフレットを配る	39.1
3	緊急時に多言語の放送や誘導を行う	44.5
4	SNS(ツイッター・フェイスブック)などで情報を早く発信する	28.1
5	多言語の相談を行う	25.7
6	地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする	30.2
7	地域の人が連絡・協力しやすいようにする	28.9
8	外国人同士が連絡・協力しやすいようにする	25.4
9	その他	2.0
10	特にない	7.0
	(無回答)	1.8

新宿区に望む災害対策としては、「避難場所の掲示等を多言語にする」(48.0%)が5割近くで最も高く、次いで「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」(44.5%)が4割台半ばとなっている。このほか、「外国語の緊急対応パンフレットを配る」(39.1%)は4割弱、「地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする」(30.2%)は約3割である。

平成19年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、最も変化が大きかったのは、平成19年度で第7位だった「地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする」が今回は第4位になったことである。(図表4-10)

<図表4-10>新宿区に望む災害対策(複数回答) / (参考)平成19年度との比較

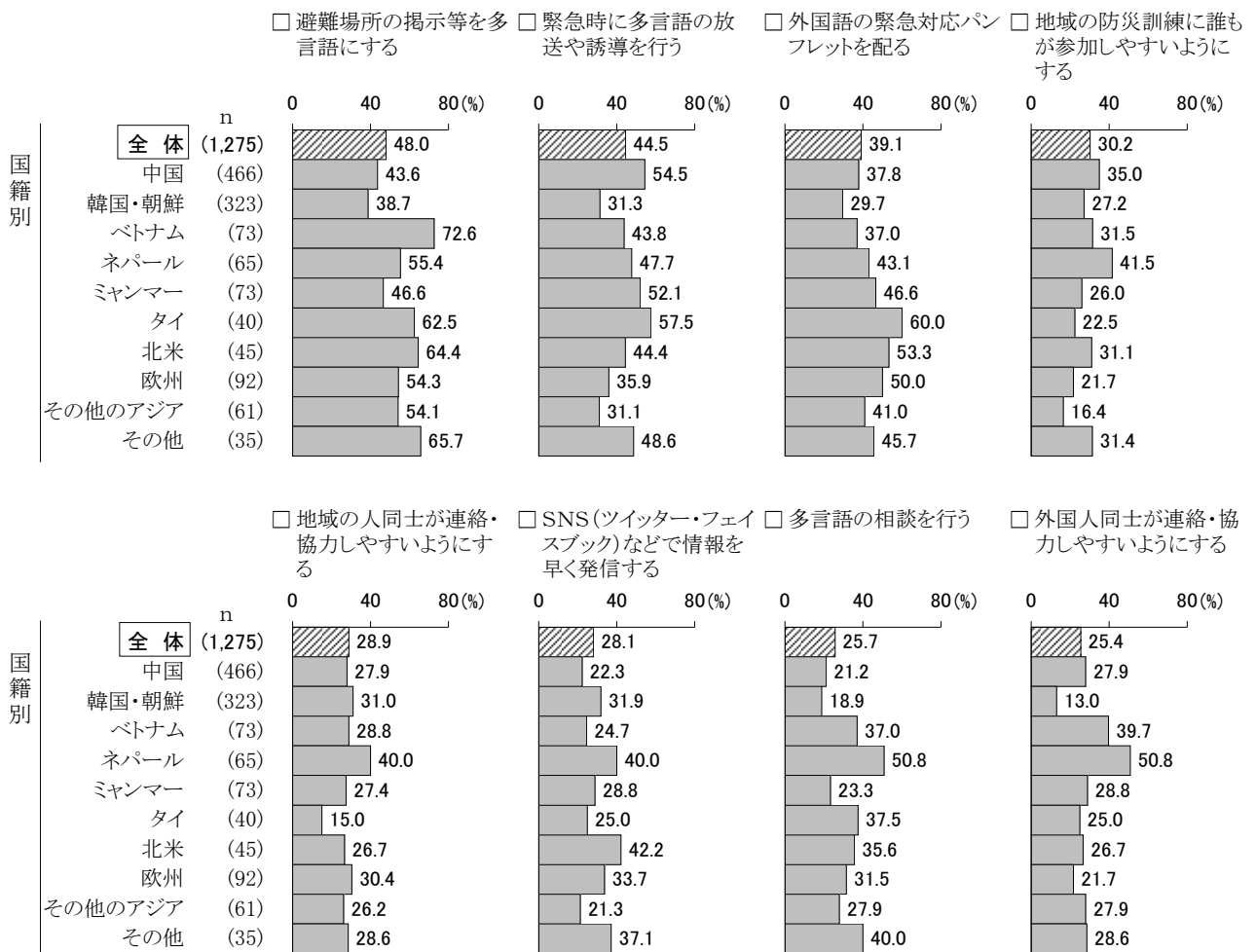


(注) ※ 今回調査で新設した項目である。

【国籍別】

「避難場所の掲示等を多言語にする」は、“ベトナム”で7割強と最も高くなっている。「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」は、“タイ”で5割台半ばを超え最も高く、次いで“中国”で5割台半ばに近い。また、「外国語の緊急対応パンフレットを配る」でも“タイ”は6割と最も高くなっている。このほか、「地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする」、「地域の人同士が連絡・協力しやすいようにする」、「多言語の相談を行う」、「外国人同士が連絡・協力しやすいようにする」は、“ネパール”で最も高くなっており、特に、「多言語の相談を行う」と「外国人同士が連絡・協力しやすいようにする」は約5割である。(図表4-11)

<図表4-11>新宿区に望む災害対策《国籍別》

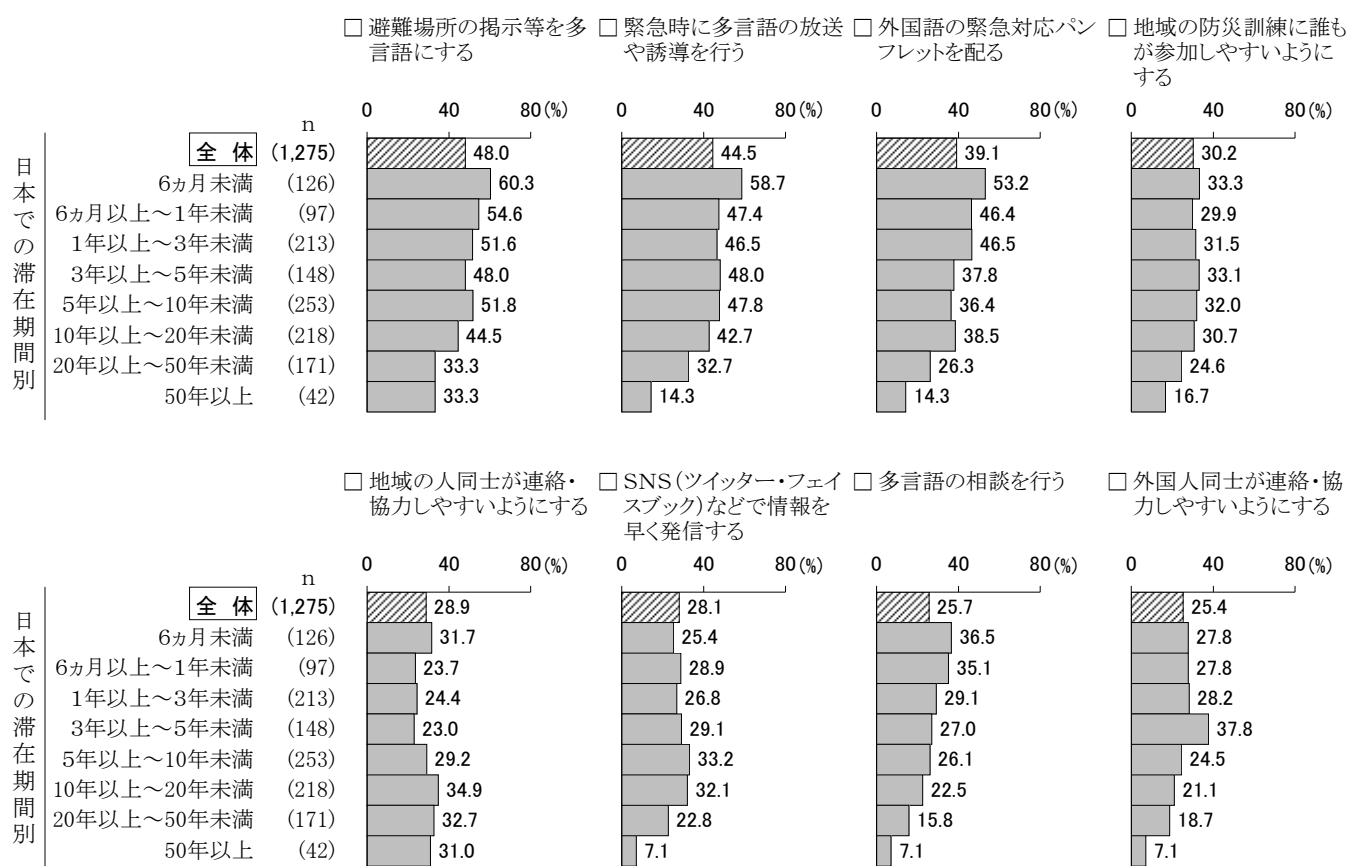


【日本での滞在期間別】

“50年以上”は、問16の「日本語に関して困ること」で全員が「ない」と回答しており（p89）、ここでは参考とし、それ以外の滞在期間にふれるものとする。

「避難場所の掲示等を多言語にする」、「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」、「外国語の緊急対応パンフレットを配る」は“6ヵ月未満”で最も高く、特に、「避難場所の掲示等を多言語にする」と「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」は6割前後となっている。また、「多言語の相談を行う」は滞在期間が長いほど低く、「外国人同士が連絡・協力しやすいようにする」は“3年以上～5年未満”で3割台半ばを超え最も高い。（図表4-12）

<図表4-12>新宿区に望む災害対策《日本での滞在期間別》



5 必要な情報・サービスについて

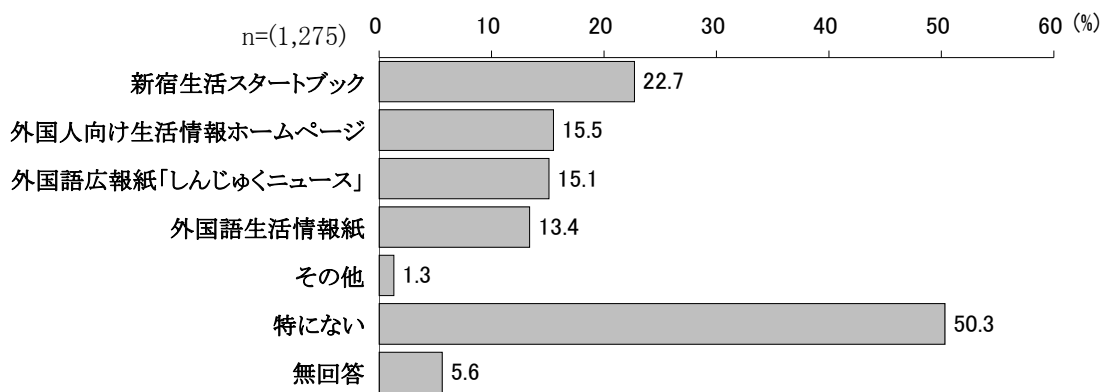
(1) 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの

◇「新宿生活スタートブック」が2割強。一方「特にない」が約5割

問21	新宿区では外国人向けの情報を多言語(ルビ付き日本語・英語・中国語・韓国語)で提供しています。次の中で知っているものをお答えください。(〇はいくつでも)				
	[n=1,275]				
1	外国語広報紙「しんじゅくニュース」	15.1%	4	外国人向け生活情報ホームページ	15.5
2	新宿生活スタートブック	22.7	5	その他	1.3
3	外国語生活情報紙	13.4	6	特にない	50.3
				(無回答)	5.6

新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているものとしては、「新宿生活スタートブック」(22.7%)が2割強と高くなっている。一方、「特にない」(50.3%)が約5割で最も高い。(図表5-1)

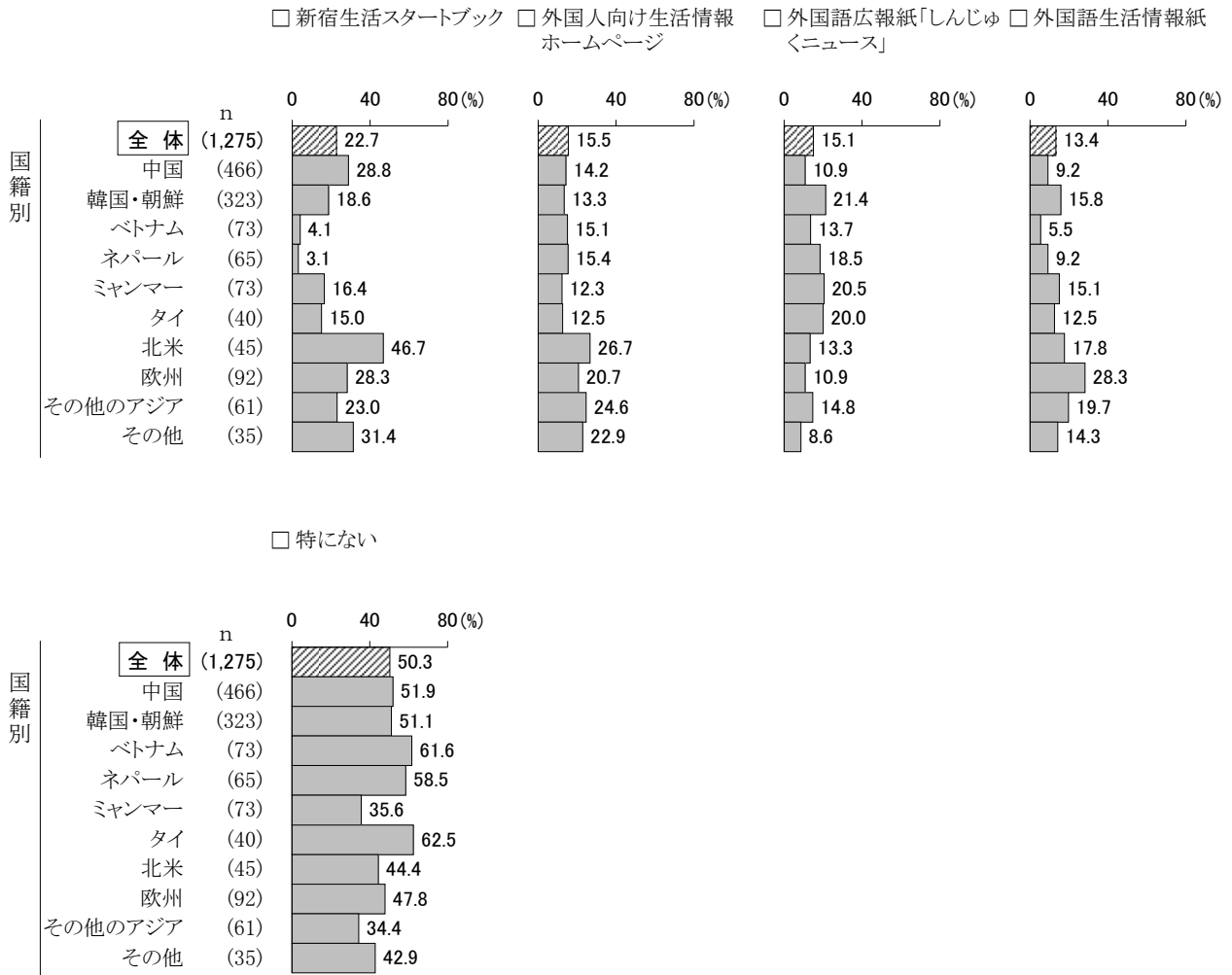
<図表5-1>新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの(複数回答)



【国籍別】

「新宿生活スタートブック」は、“北米”で4割台半ばを超え最も高くなっている。しかし、“ベトナム”と“ネパール”は1割に満たない。「外国人向け生活情報ホームページ」でも、“北米”は2割台半ばを超え最も高く、次いで“その他のアジア”で2割台半ば近く、“その他”で2割強となっている。また、「外国語生活情報紙」は“欧州”で3割近く最も高い。一方、いずれの国籍でも「特にない」は高く、中でも“タイ”と“ベトナム”で6割強、“ネパール”で6割近い。(図表5-2)

<図表5-2>新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの《国籍別》



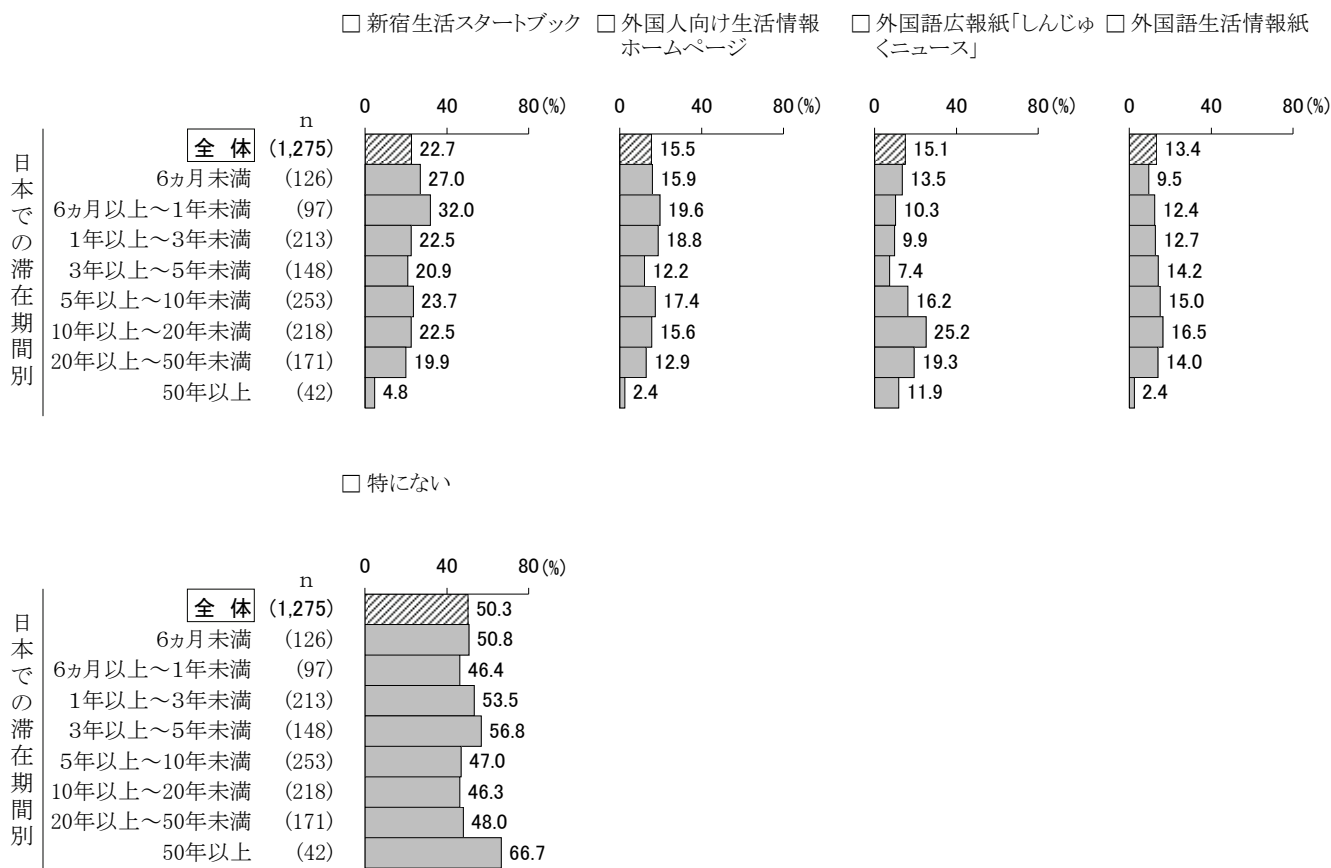
【日本での滞在期間別】

“50年以上”は、問16の「日本語に関して困ること」で全員が「ない」と回答しており（p89）、ここでは参考とし、それ以外の滞在期間にふれるものとする。

「新宿生活スタートブック」は“6ヵ月以上～1年未満”で3割強、「外国語広報紙『しんじゅくニュース』」は“10年以上～20年未満”で2割台半ばと最も高くなっている。（図表5－3）

<図表5－3>新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの

《日本での滞在期間別》



(2) 新宿区で生活していく上で知りたい情報

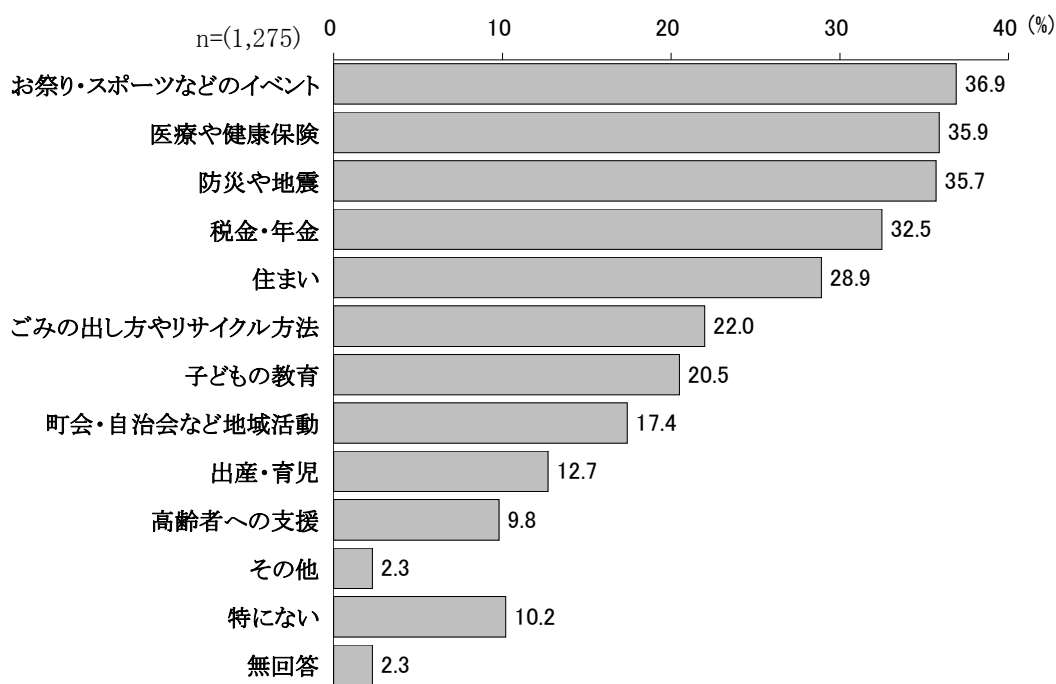
◇「お祭り・スポーツなどのイベント」が3割台半ばを超え最も高く、「医療や健康保険」と「防災や地震」が3割台半ば

問22	新宿区で生活していく上で、どんな情報をもっと知りたいですか。(〇はいくつでも)		
	[n = 1, 275]		
1	ごみの出し方やリサイクル方法	22.0%	7 出産・育児
2	防災や地震	35.7	8 子どもの教育
3	高齢者への支援	9.8	9 住まい
4	医療や健康保険	35.9	10 お祭り・スポーツなどのイベント
5	町会・自治会など地域活動	17.4	11 その他
6	税金・年金	32.5	12 特にな
			(無回答)
			2.3

新宿区で生活していく上で知りたい情報としては、「お祭り・スポーツなどのイベント」(36.9%)が3割台半ばを超え最も高く、次いで「医療や健康保険」(35.9%)と「防災や地震」(35.7%)が3割台半ばとなっている。(図表5-4)

平成19年度にも同様の設問を聞いているが、項目の内容を変更しているため、参考として掲載する。(図表5-5)

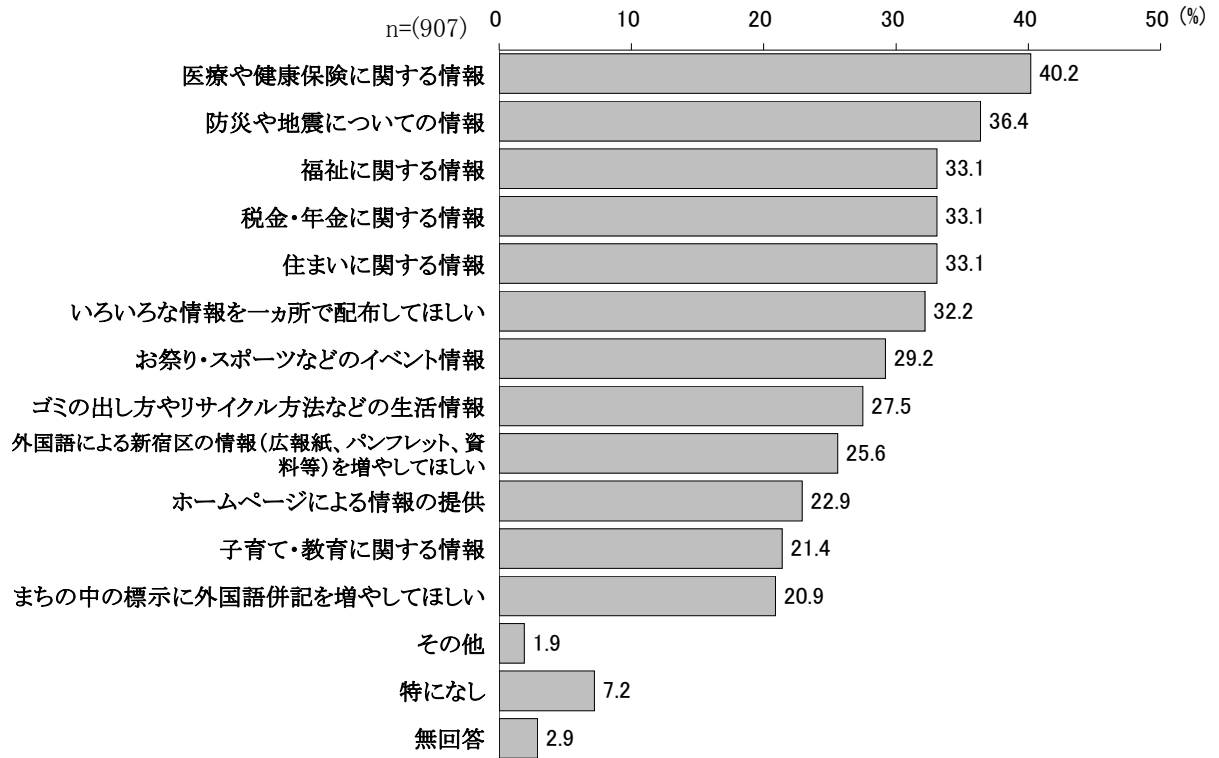
<図表5-4>新宿区で生活していく上で知りたい情報(複数回答)



<図表5-5> (参考) 平成19年度

問 あなたは、新宿区で生活していく上で、どのような情報が必要だと思いますか。

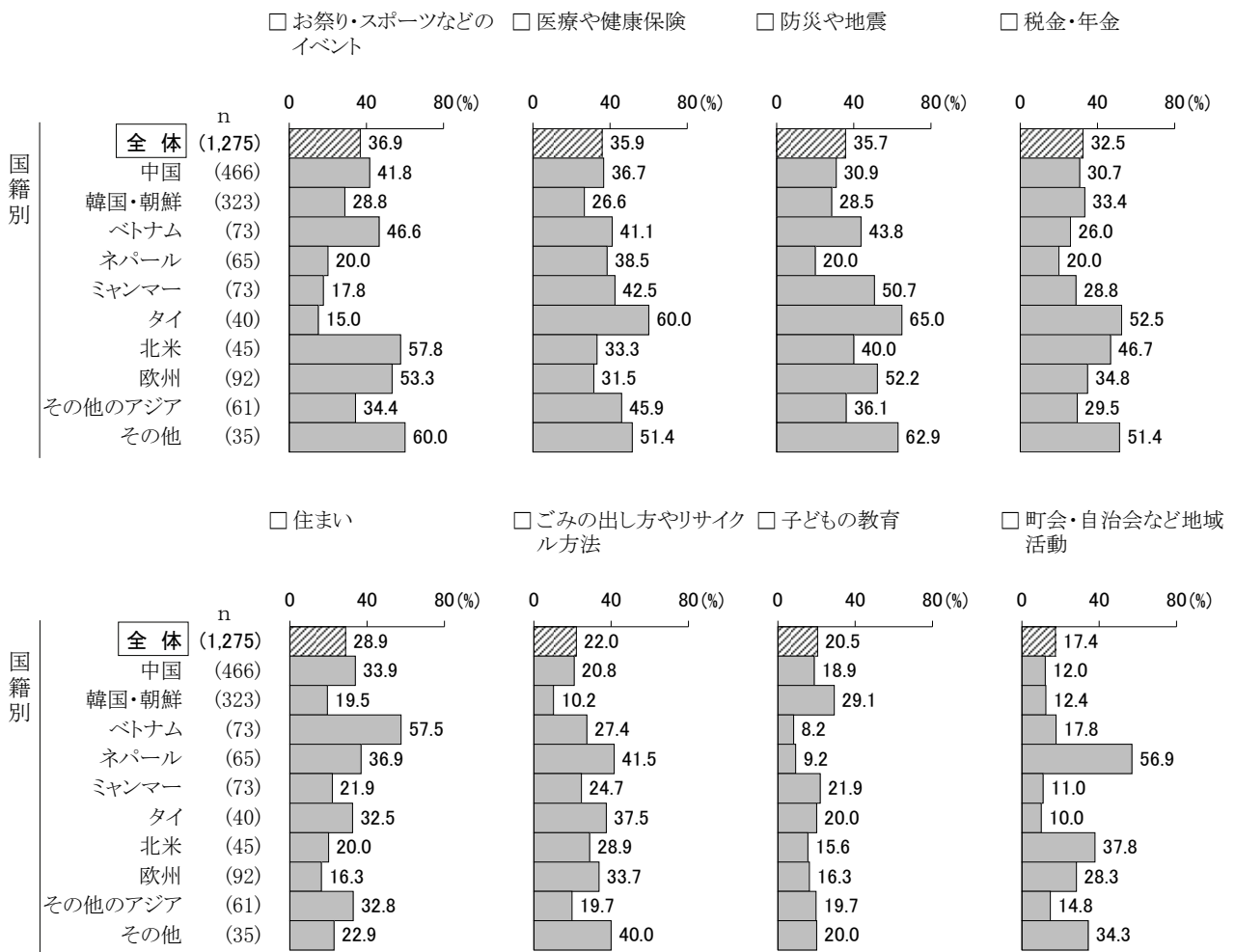
(○はいくつでも)



【国籍別】

上位8項目について国籍別でみると、「お祭り・スポーツなどのイベント」は、“その他”で6割と最も高く、次いで“北米”で5割台半ばを超え、“欧州”で5割台半ば近い。「医療や健康保険」は“タイ”で6割と最も高くなっている。「防災や地震」でも“タイ”は6割台半ばと最も高く、次いで“その他”で6割強となっており、これらの2国籍は「税金・年金」でも5割強と高くなっている。このほか、「住まい」は“ベトナム”で、「町会・自治会など地域活動」は“ネパール”で5割台半ばを超えている。(図表5-6)

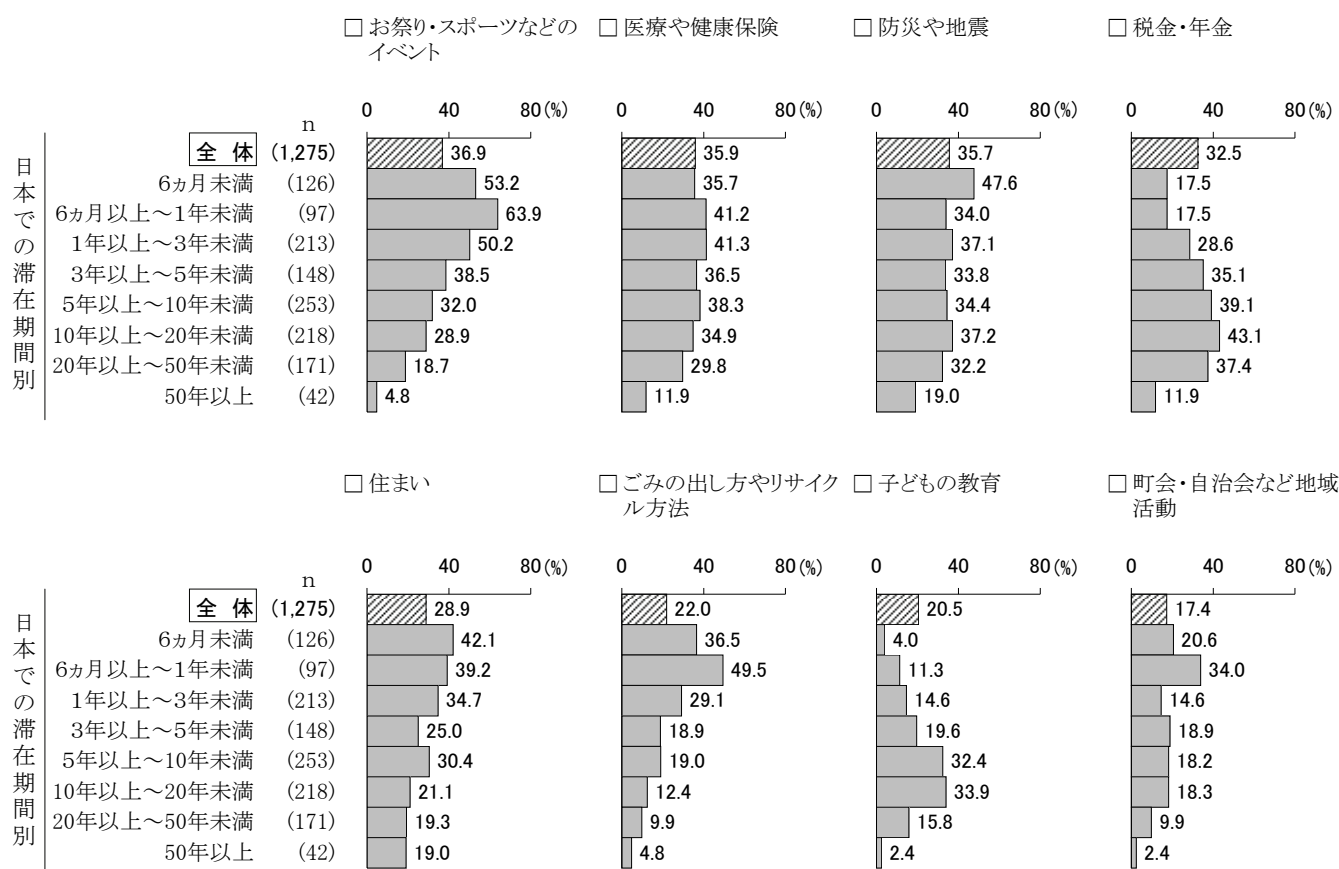
<図表5-6>新宿区で生活していく上で知りたい情報《国籍別》(上位8項目)



【日本での滞在期間別】

上位8項目について日本での滞在期間別でみると、「お祭り・スポーツなどのイベント」、「住まい」、「ごみの出し方やリサイクル方法」は、“6ヵ月未満”から“1年以上～3年未満”で高い傾向にあり、おおむね滞在期間が長いほど低くなる。「防災や地震」は“6ヵ月未満”で4割台半ばを超え最も高くなっている。また、「税金・年金」と「子どもの教育」は、“10年以上～20年未満”まで滞在期間が長いほど高くなり、「町会・自治会など地域活動」は“6ヵ月以上～1年未満”で3割台半ば近くと最も高い。(図表5-7)

<図表5-7>新宿区で生活していく上で知りたい情報《日本での滞在期間別》(上位8項目)



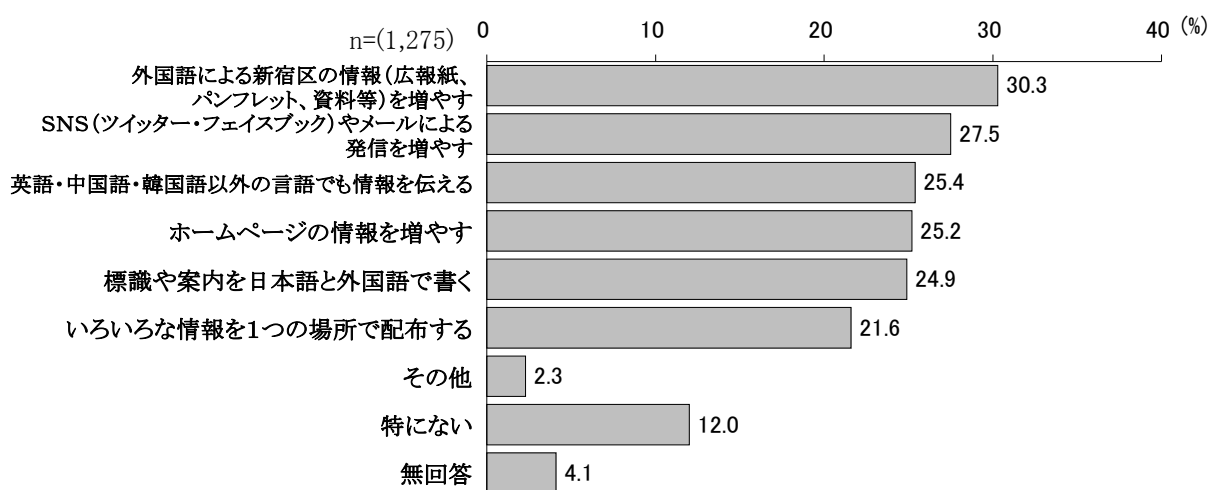
(3) 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと

◇「外国語による新宿区の情報を増やす」が約3割で最も高い

問23	必要な情報を手に入れるために、新宿区にどんなことをしてほしいですか。	(〇はいくつでも)
	[n=1,275]	
1	いろいろな情報を1つの場所で配布する	21.6%
2	外国語による新宿区の情報(広報紙、パンフレット、資料等)を増やす	30.3
3	英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える	25.4
4	標識や案内を日本語と外国語で書く	24.9
5	ホームページの情報を増やす	25.2
6	SNS(ツイッター・フェイスブック)やメールによる発信を増やす	27.5
7	その他	2.3
8	特にない	12.0
	(無回答)	4.1

必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいことは、「外国語による新宿区の情報(広報紙、パンフレット、資料等)を増やす」(30.3%)が約3割で最も高く、次いで「SNS(ツイッター・フェイスブック)やメールによる発信を増やす」(27.5%)が2割台半ばを超える。このほか、「英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える」(25.4%)、「ホームページの情報を増やす」(25.2%)、「標識や案内を日本語と外国語で書く」(24.9%)が2割台半ば前後で並ぶ。(図表5-8)

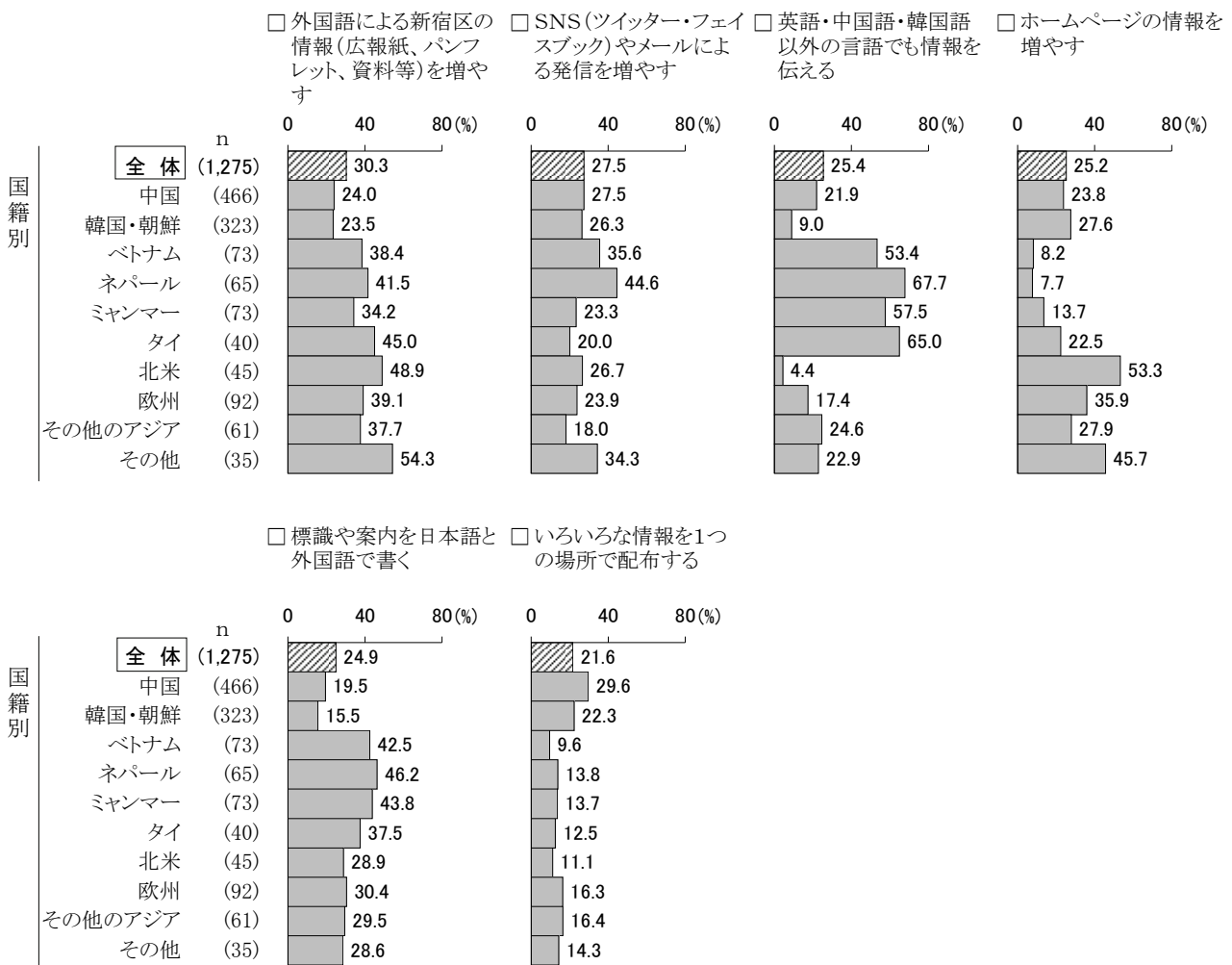
<図表5-8>必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと(複数回答)



【国籍別】

「外国語による新宿区の情報（広報紙、パンフレット、資料等）を増やす」は“その他”で5割台半ば近く、「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」は“ネパール”で4割台半ば近く、それぞれ最も高くなっている。「英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える」は、“ネパール”で6割台半ばを超え、“タイ”で6割台半ば、“ミャンマー”と“ベトナム”で5割台半ば前後と高い。また、これらの国籍は、「標識や案内を日本語と外国語で書く」でも高い傾向にある。このほか、「ホームページの情報を増やす」は、“北米”で5割台半ば近くと最も高くなっており、次いで“その他”で4割台半ばとなっている。（図表5－9）

<図表5－9>必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと《国籍別》

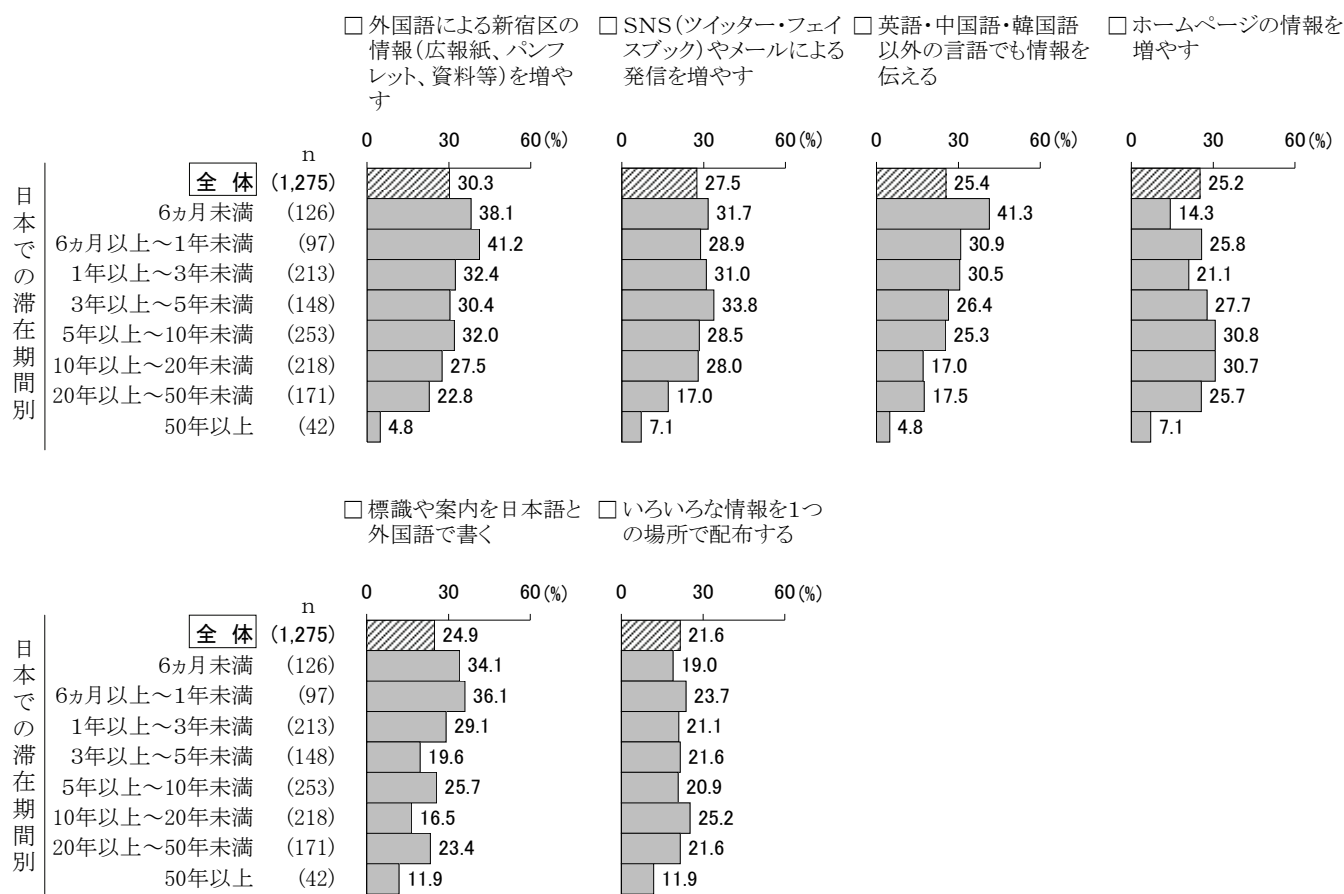


【日本での滞在期間別】

“50年以上”は、問16の「日本語に関して困ること」で全員が「ない」と回答しており（p89）、ここでは参考とし、それ以外の滞在期間にふれるものとする。

「外国語による新宿区の情報（広報紙、パンフレット、資料等）を増やす」、「英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える」、「標識や案内を日本語と外国語で書く」は、“6ヵ月未満”から“1年以上～3年未満”で高い傾向にある。特に、「外国語による新宿区の情報（広報紙、パンフレット、資料等）を増やす」は“6ヵ月以上～1年未満”で、“英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える”は“6ヵ月未満”で4割強である。（図表5-10）

<図表5-10> 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと 《日本での滞在期間別》



6 多文化共生のまちづくり

(1) しんじゅく多文化共生プラザについて

◇「はじめて知った」が7割台半ば近い

しんじゅくく、さまざま、こくせき、みんぞく、ひとびと、たが、ぶんか、ちが、みと、りかい、ちいき、とも、い、新宿区では、様々な国籍・民族の人々が、互いの文化の違いを認め、理解し、地域で共に生きていく「多文化共生のまちづくり」を推進しています。

問24 しんじゅくく、にほんじん、がいこくじん、こうりゅうしせつ、しんじゅく、たぶんかきょうせい、ぶらざ、せっち、新宿区では、日本人と外国人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、にほんごがくしゅう、しりょう、じょうほう、ていきょう、こうりゅうかい、こうざとう、おこな、日本語学習、資料・情報の提供、交流会や講座等を行っています。あなたは、この施設をしっていますか。(○は1つだけ)

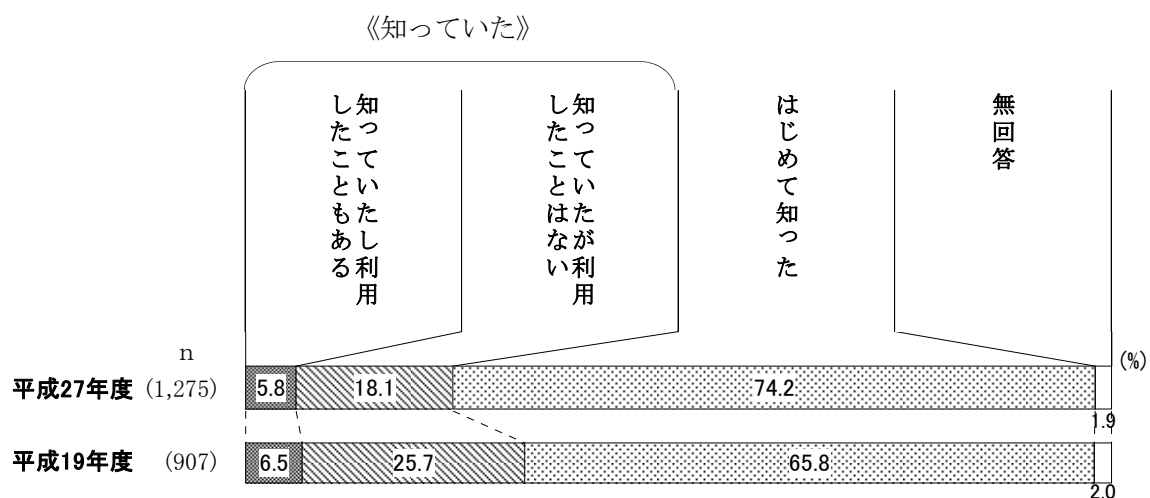
[n=1,275]

1	知っていたし利用したこともある	5.8%	3	はじめて知った	74.2
2	知っていたが利用したことはない	18.1		(無回答)	1.9

しんじゅく多文化共生プラザについて「はじめて知った」(74.2%)が7割台半ば近くで高くなっている。一方、「知っていたし利用したこともある」(5.8%)と「知っていたが利用したことはない」(18.1%)を合わせると、《知っていた》(23.9%)は2割台半ば近くである。

平成19年度と比較すると、《知っていた》は8.3ポイント減少している。(図表6-1)

<図表6-1>しんじゅく多文化共生プラザについて／平成19年度との比較



(2) 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと

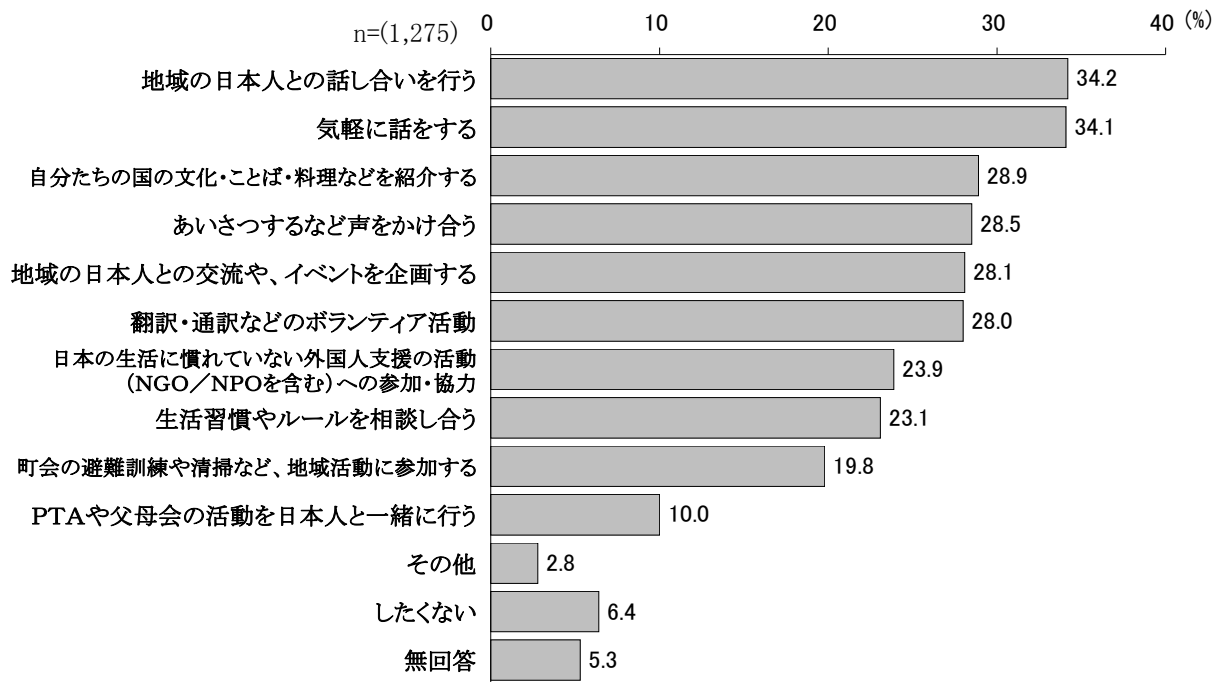
◇「地域の日本人との話し合いを行う」と「気軽に話をする」が3割台半ば近くで高い

問25	新宿区では「多文化共生のまちづくり」を進めるために、皆さんに能力や経験を生かして地域で活躍してほしいと考えています。そこで、あなたは、地域の中でどのような活動してみたいと思いますか。(〇はいくつでも)	
	[n=1,275]	
1	あいさつするなど声をかけ合う	28.5%
2	気軽に話をする	34.1
3	生活習慣やルールを相談し合う	23.1
4	地域の日本人との話し合いを行う	34.2
5	地域の日本人との交流や、イベントを企画する	28.1
6	町会の避難訓練や清掃など、地域活動に参加する	19.8
7	自分たちの国の文化・ことば・料理などを紹介する	28.9
8	PTAや父母会の活動を日本人と一緒にやる	10.0
9	翻訳・通訳などのボランティア活動	28.0
10	日本の生活に慣れていない外国人支援の活動(NGO/NPOを含む)への参加・協力	23.9
11	その他	2.8
12	したくない	6.4
	(無回答)	5.3

多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこととしては、「地域の日本人との話し合いを行う」(34.2%)と「気軽に話をする」(34.1%)が3割台半ば近くで高くなっている。このほか、「自分たちの国の文化・ことば・料理などを紹介する」(28.9%)、「あいさつするなど声をかけ合う」(28.5%)、「地域の日本人との交流や、イベントを企画する」(28.1%)、「翻訳・通訳などのボランティア活動」(28.0%)が3割近くで並んでいる。(図表6-2)

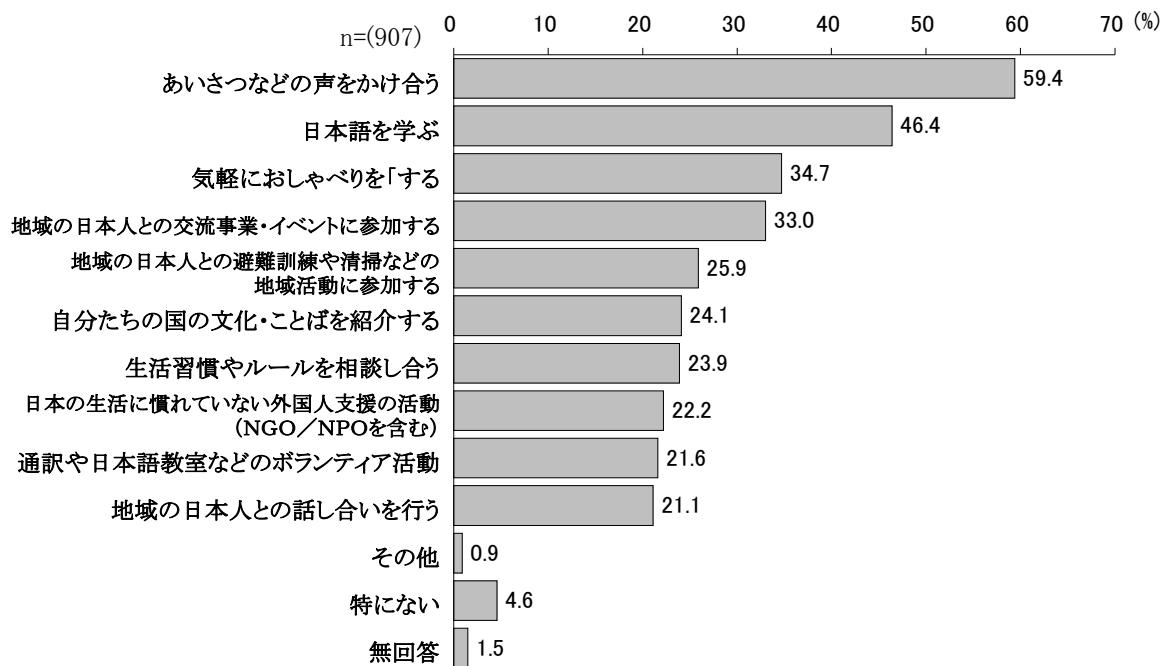
平成19年度にも同様の設問を聞いているが、項目の内容を大幅に変更しているため、参考として掲載する。(図表6-3)

<図表6-2> 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと（複数回答）



<図表6-3> (参考) 平成19年度

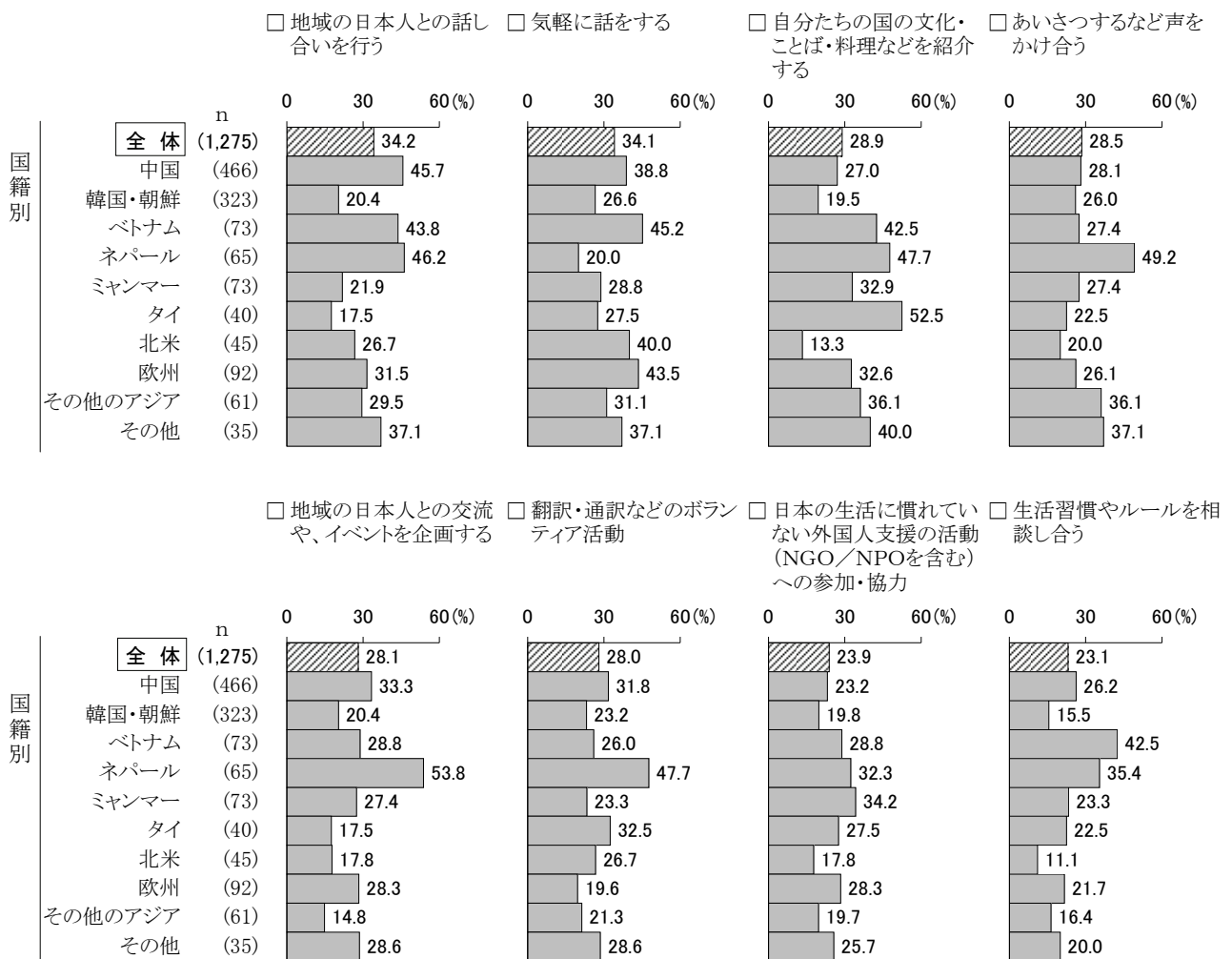
問 新宿区では、皆さんが能力や経験を生かして地域で活躍してほしいと考えています。そこで、あなたは、地域の中で、どのような活動をしてみたいと思いますか。(〇はいくつでも)



【国籍別】

上位8項目について国籍別でみると、「地域の日本人との話し合いを行う」は、「ネパール」、「中国」「ベトナム」で4割台半ば前後と高く、「気軽に話をする」でも、「ベトナム」は「欧州」、「北米」とともに高い。「自分たちの国の文化・ことば・料理などを紹介する」は、「タイ」で5割強と最も高く、次いで「ネパール」で4割台半ばを超え、「ベトナム」で4割強となっている。また、「あいさつするなど声をかけ合う」、「地域の日本人との交流や、イベントを企画する」、「翻訳・通訳などのボランティア活動」は、「ネパール」で最も高く、特に、「地域の日本人との交流や、イベントを企画する」は5割台半ばに近い。このほか、「生活習慣やルールを相談し合う」は、「ベトナム」で4割強と最も高く、次いで「ネパール」で3割台半ばである。(図表6-4)

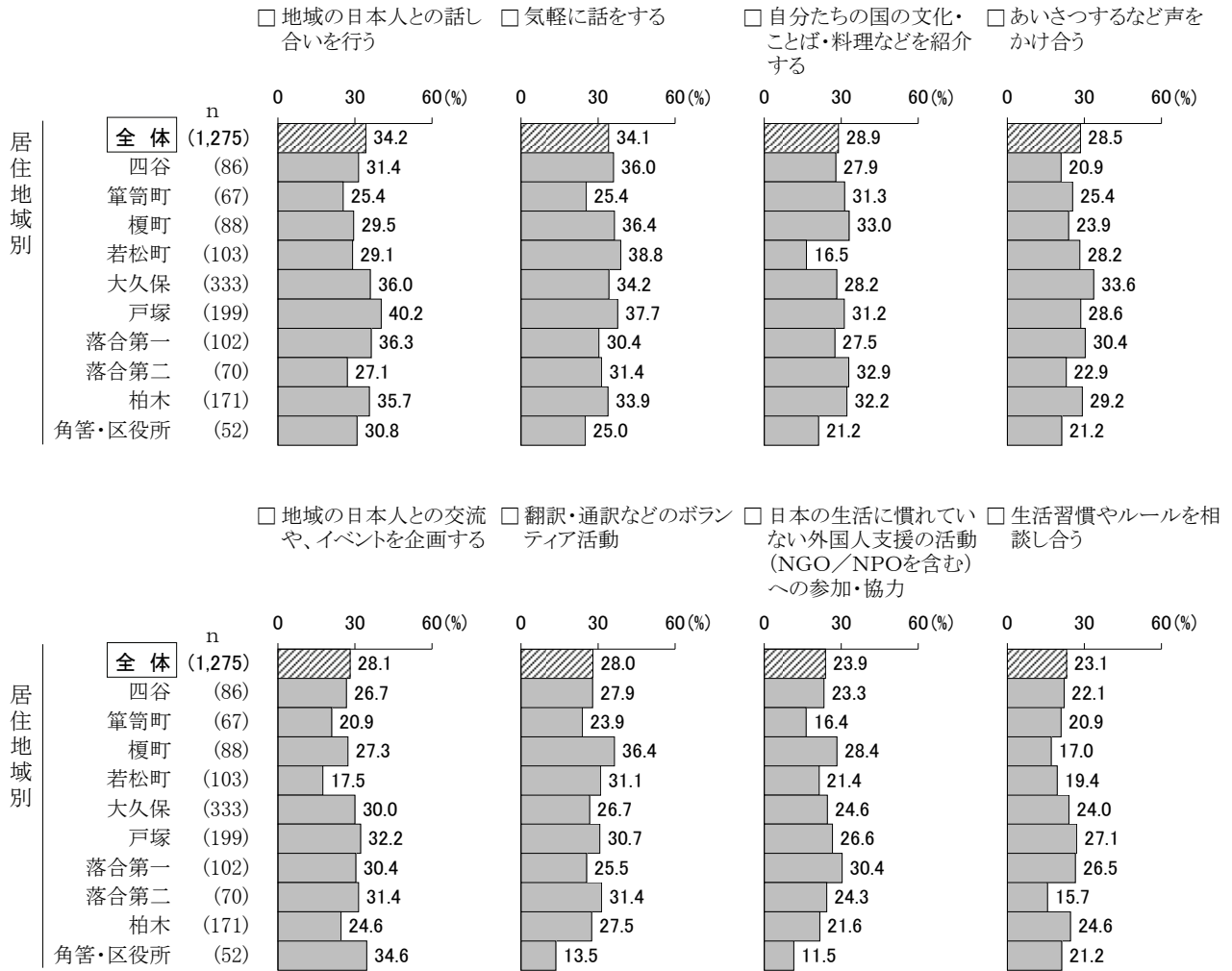
<図表6-4>多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと《国籍別》(上位8項目)



【居住地域別】

上位8項目について居住地域別でみると、「地域の日本人との話し合いを行う」は、“戸塚”で約4割と最も高くなっている。「気軽に話をする」は、“若松町”で4割近く、次いで“戸塚”、“榎町”、“四谷”で3割台半ばを超える。このほか、「地域の日本人との交流や、イベントを企画する」は“角筈・区役所”で3割台半ば近く、「翻訳・通訳などのボランティア活動」は“榎町”で3割台半ばを超える。
(図表6-5)

<図表6-5>多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと《居住地域別》(上位8項目)



(3) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきと思うこと

◇「日本人との交流会やイベント」が4割強で最も高く、「外国人への偏見・差別をなくすための努力」が3割台半ばを超える

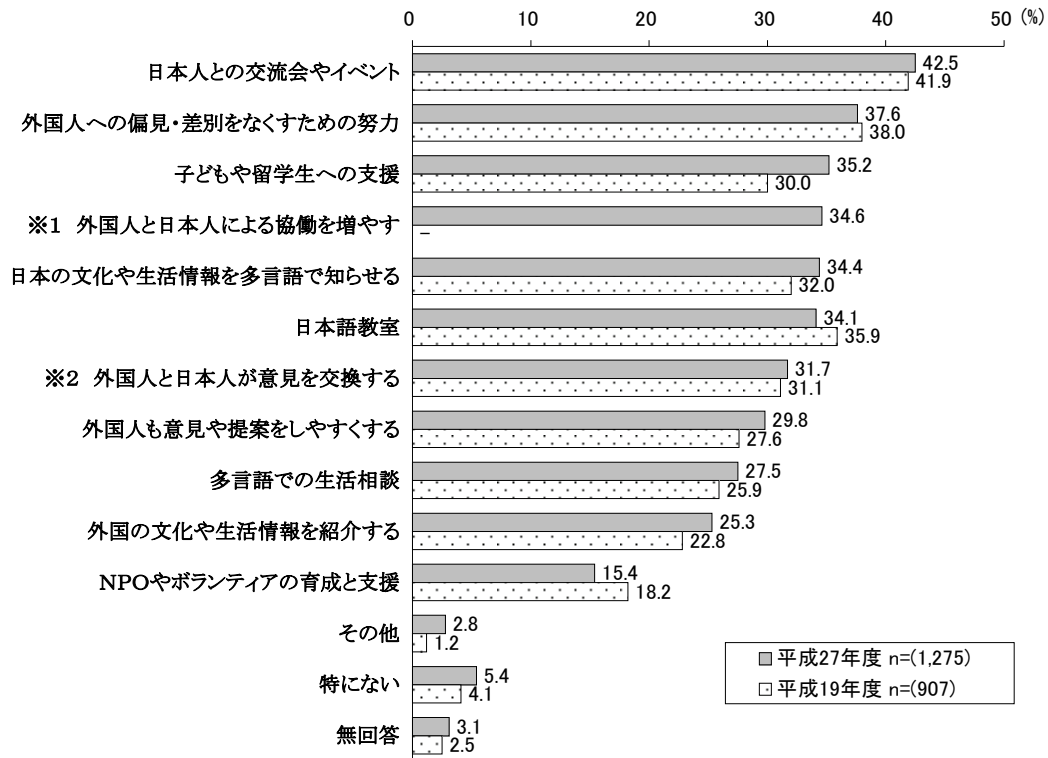
問26	「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区の対応として、どのようなことを進めるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)	
	[n=1,275]	
1	日本人との交流会やイベント	42.5%
2	日本の文化や生活情報を多言語で知らせる	34.4
3	外国の文化や生活情報を紹介する	25.3
4	多言語での生活相談	27.5
5	日本語教室	34.1
6	外国人と日本人が意見を交換する	31.7
7	外国人と日本人による協働を増やす	34.6
8	NPOやボランティアの育成と支援	15.4
9	外国人への偏見・差別をなくすための努力	37.6
10	子どもや留学生への支援	35.2
11	外国人も意見や提案をしやすくする	29.8
12	その他	2.8
13	特にない	5.4
	(無回答)	3.1

多文化共生のまちづくり推進のために区が進めるべきと思うことは、「日本人との交流会やイベント」(42.5%)が4割強で最も高く、次いで「外国人への偏見・差別をなくすための努力」(37.6%)が3割台半ばを超える。このほか、「子どもや留学生への支援」(35.2%)、「外国人と日本人による協働を増やす」(34.6%)、「日本の文化や生活情報を多言語で知らせる」(34.4%)、「日本語教室」(34.1%)が3割台半ば前後で並ぶ。

平成19年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、平成19年度で第6位だった「子どもや留学生への支援」が今回は第3位に順位を上げ、平成19年度で第3位だった「日本語教室」が今回は第6位に順位を下げている。(図表6-6)

<図表 6-6> 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきと思うこと（複数回答）

／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 今回調査で新設した項目である。

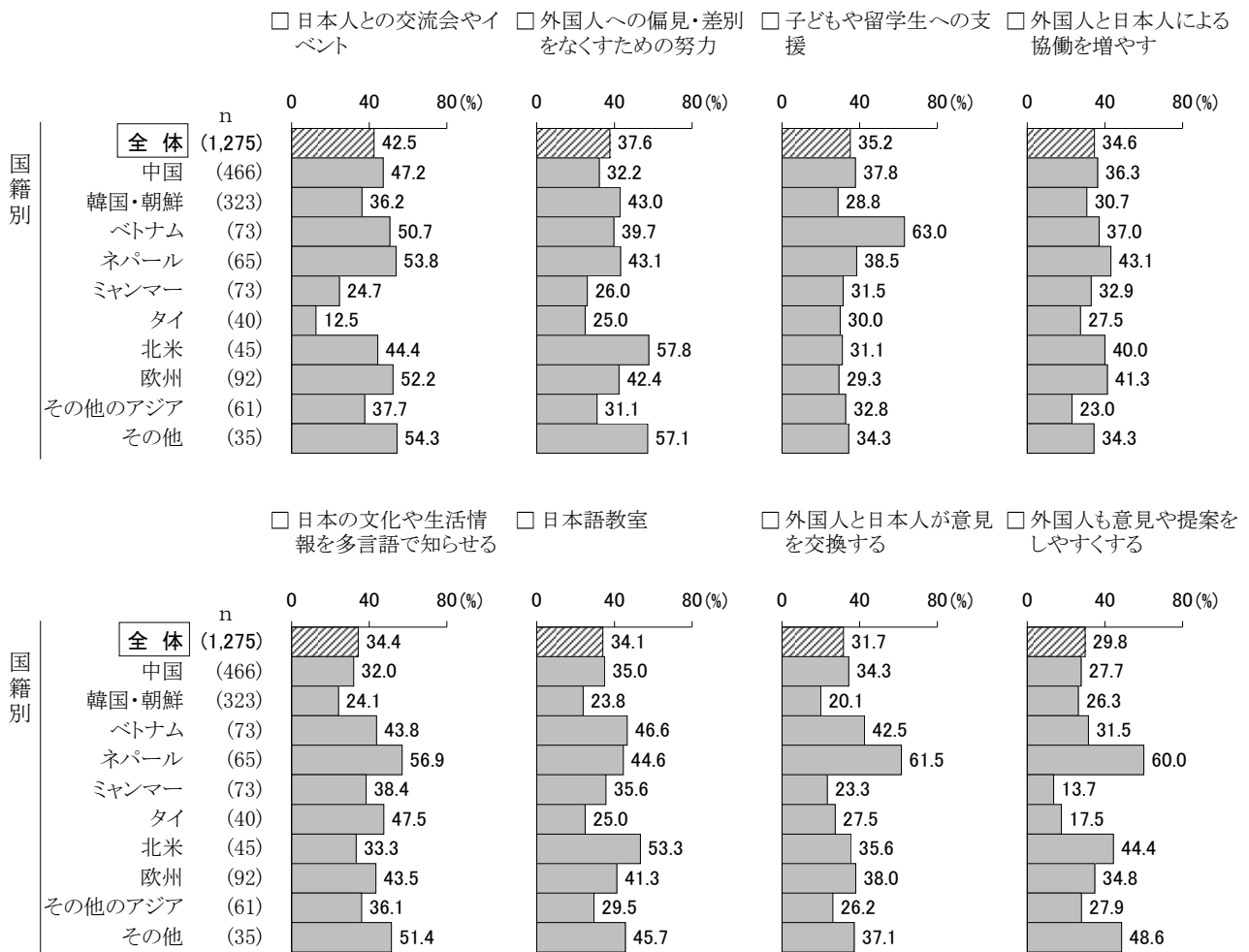
(注) ※2 「外国人と日本人が意見を交換する」は、平成19年度調査では「外国人と日本人の意見交換会・話し合い」であった。

【国籍別】

上位8項目について国籍別でみると、「日本人との交流会やイベント」は、「その他」と「ネパール」で5割台半ば近く、「欧州」で5割強、「ベトナム」で約5割となっているが、「タイ」が1割強にとどまる。「外国人への偏見・差別をなくすための努力」は「北米」と「その他」で5割台半ばを超え高く、「北米」は「日本語教室」でも5割台半ば近い。「子どもや留学生への支援」は、「ベトナム」で6割台半ば近くで最も高くなっている。また、「日本の文化や生活情報を多言語で知らせる」は、「ネパール」で5割台半ばを超え最も高く、次いで「その他」で5割強である。さらに、「ネパール」は、「外国人と日本人が意見を交換する」で6割強、「外国人も意見や提案をしやすいとする」で6割と、それぞれ最も高くなっている。(図表6-7)

<図表6-7> 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきと思うこと《国籍別》

(上位8項目)



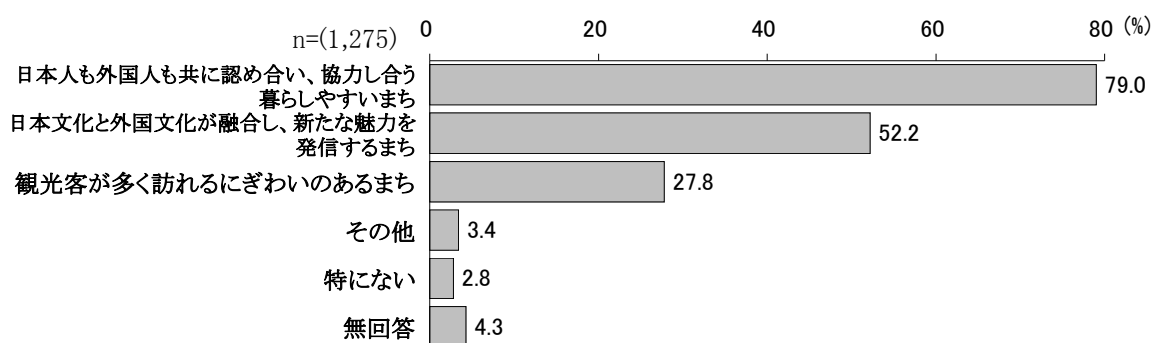
(4) 新宿区への期待

◇「日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち」が8割弱で最も高い

問27	これから新宿区がどのようなまちになって欲しいですか。(〇はいくつでも)	
	[n = 1, 275]	
1	観光客が多く訪れるにぎわいのあるまち	27.8%
2	日本文化と外国文化が融合し、新たな魅力を発信するまち	52.2
3	日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち	79.0
4	その他	3.4
5	特にない	2.8
	(無回答)	4.3

新宿区への期待としては、「日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち」(79.0%)が8割弱で最も高くなっている。次いで「日本文化と外国文化が融合し、新たな魅力を発信するまち」(52.2%)は5割強、「観光客が多く訪れるにぎわいのあるまち」(27.8%)は2割台半ばを超える。(図表6-8)

<図表6-8>新宿区への期待 (複数回答)



7 自由回答（抜粋）

新宿区をもっと住みやすいまちにするために、あなたのご意見を、自由に書いてください。

新宿区の多文化共生のまちづくりに対する意見や要望を自由に記入していただいたところ、454件のご意見が寄せられた。その主な内容について掲載する。

- ・類似した内容のご意見については、その主なものを掲載する。
- ・原文を可能な限り尊重し、個人・団体が特定されないように配慮するとともに、誤字・脱字と思われるものは修正した。

- 働く母親として、子育てや週末の時間の過ごし方の情報がもっと欲しいです。また、同じ状況の他の親たちと交流できる場所があるといいと思います。上級日本語クラスもあると役立つと思います。（女性／30歳代／北米／柏木）
- 日本への訪問者として、基本的には外国人が責任を持って日本文化や様式を学び、それに溶け込むべきだと思います。（男性／40歳代／欧州／戸塚）
- 私のような多くの外国人は、日本社会にもっと溶け込もうとしていますが、必要な日本語のスキルや情報がありません。また、私は幸運にも差別をされたと感じたことはほとんどありません。しかし、国民年金の外国人の扱いは例外だと思います。（女性／50歳代／北米／笹笠町）
- 夫が賃貸物件を借りようとしたが、何回も断られた。私たちが日本語を話せない外国人であることがその理由のすべて。新宿区には外国人用の賃貸物件の案内を用意してもらえるとありがたい。（女性／30歳代／その他のアジア／四谷）
- 健康保険や税金、年金関係の情報がもっと欲しい。最初に日本に来た時、それらに登録するべきだという情報しかもらえず、後で多額を支払うように求められた。それが支払えなくて、とても怒りがわき悲しかった。（女性／30歳代／欧州／落合第二）
- 地域のイベント情報が日本語だけで外国人の私にはわかりません。ポスターやバナーを英語でもお願いします。また、緊急情報も英語で発信されるべきです。（男性／20歳代／その他のアジア／四谷）
- 東京(新宿)は欧米人には住みやすい場所です。日本人と外国人の間の問題は深いところにあります。60歳以上の日本人が外国の文化や考え方にオープンで知識があるように思えるのは理由があるはず。学校教育では、日本の10代・20代と、特に韓国や中国などの近隣アジア諸国の外国人との間の交流をもっと促進するべきです。（女性／40歳代／欧州／落合第二）
- 町会または新宿区による旅行等のイベントを計画してほしい。自費でも構いません。そうすれば外国人と日本人との交流の機会を増やせます。（女性／20歳代／中国／柏木）
- いろいろな国から来た人たちは、みんな日本語で交流するため、日本語は重要なツールですが、生活関連のガイドブックやハンドブックについては多言語対応の翻訳版を出してほしいです。というのも、ルールを破るつもりはなくても、日本語がよくわからないためにやってしまうことが多々あるからです。（女性／20歳代／中国／大久保）
- 日本語が話せない外国人のためにもっと交流や勉強の機会を提供したほうがよい。また日本語を必要としないボランティアの仕事をもっと提供する。（女性／30歳代／中国／角筈・区役所）

- 日本語が話せないため、子どもの入学問題に頭を悩ませています。サポートしていただきたいです。(女性/30歳代/中国/大久保)
- 外国人とはいっても日本に住んでいるのだから、みなが手を携えて素晴らしい生活環境を守っていくため、外国人に対しても厳しい要求を課し、日本の習慣や制度に従わせるようにしていただきたいと思います。出身国の悪い習慣を日本に持ち込むことのないように。(女性/20歳代/中国/落合第一)
- 行政が主催する日本語学習カリキュラムがもっと多ければと思います。週に1回だけでの授業では効果も上がりやすく、学んでもすぐに忘れてしまい、なかなか日本語を習得できません。内容は、日常生活でよく使われる日本語を教えるものが理想です。(女性/20歳代/中国/大久保)
- 新宿には多くの中国人観光客が来ます。中国のまちなかにはあちこちにごみ箱がありますが、日本では設置されていません。このため、中国人観光客がごみをどうすれば良いか分からず、ポイと捨ててしまう事態につながっており、まちの清潔さや住民の生活の質を損ねるとともに、両国民間の誤解を生んでいます。人通りが多い場所には目立つようにごみ箱を設置するなどの措置をとっていただきたいと思います。国が違えば状況も異なりますので、相互に理解を深めることができたらと感じています。(女性/20歳代/中国/若松町)
- 東京は日本の中心都市であり、新宿は東京を代表する地区です。日本の文化と海外の文化を融合させ、キラリと光る点、オリジナリティを打ち出してほしい。(女性/30歳代/中国/戸塚)
- 新宿区で実施するイベント、お祭り、子どもたちの体験について情報を簡単に知りたい。しんじゅく多文化共生プラザについて情報を知りたい。(男性/40歳代/韓国・朝鮮/若松町)
- 外国語の案内は多いが、大部分が観光客対象で、実際に居住している人たちは役立つとは思っていないようです。あえて外国人のために何かをするより、外国人を外国人と規定するのではなく、区民のために何を変えて便利で住みよいまちにするかを考える必要があると思う。(女性/20歳代/韓国・朝鮮/柏木)
- 新宿がとても好きです。外国人と新宿区内の事業者たちとの交流の機会をつくるとよいと思います。(男性/50歳代/韓国・朝鮮/若松町)
- いろいろな国の人たちが集まっている新宿区。住んでみると問題が生じます。ひとつの経験のみでその国全体を見くびるような発言をせず、固定観念を捨て、人として互いに協力していく心が必要です。(男性/40歳代/韓国・朝鮮/戸塚)
- 日本に来て7か月です。この間、夫と一緒に役所、病院、子どもの学校でいろいろなことをしていますが、そこでは私たちのような外国人を差別していないことがわかりました。話し方も含め、みんな親切です。新宿区が好きで感謝しています。(女性/30歳代/ミャンマー/戸塚)
- しんじゅく多文化共生プラザはビルの11階で部屋も閉ざされた感じで行きにくい。地域センター、生涯学習館など、各地域に広く根ざした「場づくり」をすべきで、1か所だけあっても使いにくい。(男性/60歳代/韓国・朝鮮/戸塚)
- アジアの国と日本の歴史関係について、お互いにもっと勉強すべきであると思う。近代歴史について日本の若い人々は、あまりにも知らないようである。(男性/20歳代/韓国・朝鮮/四谷)
- 今まで外国人は助けてもらっている立場でしたが、もっと社会貢献ができるようなチャンスを区につくっていただきたいです。例えば、外国人の観光ガイド、外国人のボランティア等。そうすれば、自分の国に誇りを感じ、日本社会の一員として必要とされている充実感を感じられると思います。(女性/30歳代/中国/大久保)

- 「外国人しかいない変な町だね」ということを聞くよりも、「さまざまな文化、交流ができる勉強の場だね」といわれるまちになってほしいです。(男性/20歳代/中国/大久保)
- 大事なことは、外国人だからといって、特別視・特殊視しないこと。普通の感覚で良いと思う。また、外国人の側も特別視・特殊視を期待したりしないこと。近代人としてのモラルを互いに守ることが最も大事と考える。地域住民として、お互いに、いい意味で気をつかいながら、気持ちよく日々を過ごしたいものです。(男性/60歳代/韓国・朝鮮/落合第一)
- 区の出張所等に住民トラブル等の苦情相談員を置いて、外国人に関係あるトラブルを調停する職員が直接出向くなど、積極的に介入するべきだと思う。文化、生活習慣の違い等、原因は多種であろうが、調停する人がいなければお互いが被害者意識を持ち、相手を受け入れられなくなるだけでなく、経済的な損害も起こり得る可能性があると思う。(女性/70歳以上/北米/榎町)
- 新宿区は独自の文化や魅力を保って、無理矢理外国の文化を取り込む必要はないと思います。確かに外国人である私たちには慣れない部分もあるが、この国の文化と魅力にひかれたからこそ、ここに来た人も少なくないと私は信じています。(女性/20歳代/中国/榎町)
- 地震などについてのフランス語、英語のパンフレットがあればいいと思います。あまり役所に行く時間がないので、メールや郵便でもらえれば助かります。(女性/20歳代/欧州/戸塚)
- 日本人も他の国の人を敬うべきです。外国人学生、旅行者を含め、すべての人たちとコミュニケーションをとる習慣を身につける必要があると思います。そうすることで助け合いの気持ちも育まれ、外国人は日本人をもっと好きになるでしょう。(男性/20歳代/ネパール/戸塚)
- 最も大きな問題は日本語です。時間がないので言葉を勉強できていません。(男性/30歳代/ネパール/戸塚)
- 私は在日三世です。特別永住者であるわれわれを外国人扱いするのに、そもそも疑問を感じます。でも新宿区は住みやすく良いまちだと思います。(女性/40歳代/韓国・朝鮮/若松町)
- 外国人が外国で暮らしていて、差別を受けたり理解されないというのはある意味当たり前のことだと思います。私たちが社会に溶け込まなければならぬのであって、社会に私たちを受け入れさせるのではないのです。日本人は外国人に対して十分寛容であり、特に複数の人種や文化が入り乱れている新宿区については特にそうであると思います。(女性/20歳代/中国/大久保)
- 外国人への管理を強化して全体的な資質を高めてほしいです。また新宿区が留学生の権利を守るための業務を行ってくれることを願います。特に部屋の賃貸問題について、留学生と不動産の仲介業者の管理を強化し、留学生の權益を守ってもらいたいです。(男性/20歳代/中国/大久保)
- ごみの捨て方についてももっとしっかり指導していただきたい。地面にごみが散乱しているのを見ると、日本ではないかのようです。(女性/30歳代/中国/大久保)
- 外国人が日本(新宿)で事業をすることにおいて、区が支援するプログラムがあればよいです。(男性/40歳代/韓国・朝鮮/大久保)
- 日本人の外国語能力を向上させる必要があります。外国人の子どもたちが学校に通えるようにしてほしいです。(女性/30歳代/ネパール/大久保)
- 外国人への偏見をなくす。日本人のヨーロッパ出身の外国人への対応とアジア出身の外国人への対応に違いが見られる。(女性/20歳代/ネパール/大久保)
- 新宿区内で、日本の祭りと同時に外国の祭りも行っていてほしいです。ネパール人が集まって、ネパールのお祭りをやろうとしているところです。日本人からいろいろと手伝ってほしいと思います。

(男性/20歳代/ネパール/大久保)

- 私は、外国だけではなく、日本の社会福祉についても学んできました。これからの「多文化共生のまちづくり」を進めるため、まず日本に留学生として長く住んでいる外国人の意見や経験などを含めた計画をつくり、日本人からの忠告に従ったほうが良いと思っています。そして、日本の異文化交流会を行ったり、多言語を話せる環境を作ったりすれば、住みやすいまちになるでしょう。(男性/20歳代/ネパール/大久保)
- ごみの分別ですが、ガイドは見ているが、それでも正確に出している自信がありません。もっと分別の仕方を細かく説明したり、またリサイクルの工程や再生法を示してもらえたら、分別の判断がしやすいと思います。(男性/20歳代/中国/笹筒町)
- このようなニーズ調査をし、反映させるのは大事だとは思っています。しかし、新宿区内で行われているデモを見ていると、このような調査の効果はあるのかと思えます。(男性/40歳代/韓国・朝鮮/柏木)
- 日本で、それも新宿区に住んでいて、新宿区のルールをよく守ることは当然だが、特定の国を対象にして攻撃する日本の少数の人々のせいで、ここに住んでいる人たちがどのような混乱に直面しているのか、同じ人間として理解を示し、広い視野で互いに楽しく暮らすことができればよいと思います。(男性/30歳代/韓国・朝鮮/柏木)
- 外国人に対する配慮がまだ完全ではないと思う。もちろん、他の国に比べて日本は外国人に対して配慮があるとは思いますが。無料電話のサービスや、困った時にすばやく頼れる何かしらが必要だと思う。事故やトラブルがあった時に、言葉で説明できないがゆえに責任を押しつけられた経験がある。(女性/30歳代/中国/柏木)
- 観光事業によってマナーがない外国人が氾濫しているようだ。ある程度の規制が必要に思える。オーバーステイをしたり、犯罪を犯す不適切な外国人が少しずつ増えて、住みづらくなり、治安が不安な新宿区になるかもしれない。(男性/40歳代/韓国・朝鮮/落合第一)
- 仕事を簡単に探せるよう、病院を簡単に探せるよう、部屋を借りる際にスムーズに借りられるようにしてもらいたい。(男性/20歳代/ミャンマー/落合第一)
- 外国人が日本語で手続きを行うのは大変なので、公共機関では英語などの広く使用されている言語を使うべきです。私の場合は日本語が話せないという理由で、新宿区の銀行で口座が開けませんでした。銀行口座を持っていない人が一体どんな生活になるのか考えてみてほしいです。(男性/20歳代/ベトナム/落合第一)
- 国際都市にふさわしく、日本人・外国人の融和を重視する施策を考えてください。(女性/70歳以上/中国/落合第一)
- 東京は2020年にオリンピックを開催するのに、住民のためのスポーツのインフラストラクチャーが全然ない(男性/50歳代/欧州/榎町)
- 小中高等学校、幼稚園等で、外国人の子女がいじめにあうようなことをなくしてほしい。専門の先生、カウンセラーが学校を巡回して指導して欲しい。小さい頃から偏見がなくなれば、大人になってもなくなっていくと思います。(女性/40歳代/タイ/四谷)
- こういうアンケート調査をしていただいたことに感激しました。新宿区がこれからもっと良くなっていけばいいなと思っています。(女性/20歳代/中国/四谷)
- 新宿区は、他の区と比べて外国人には住みやすいと思います。イベントだけでなく、もっと気軽に外国人と日本人が仲良くなれる場所があるといいですね。(男性/30歳代/欧州/若松町)

- もっと安全で平和に住めるまちになってほしい。(女性/30歳代/その他のアジア/若松町)
- 外国の文化や生活情報を紹介する。外国人と日本人が意見を交換する。外国人と日本人による協働を増やす。(女性/20歳代/ベトナム/大久保)
- 国は関係なく、一人の人間として相手のことを理解し、尊敬し合うことが大事だと思っています。(女性/20歳代/タイ/大久保)
- このようなアンケート調査をしてくれること自体に感謝しています。新宿区がんばろう！(男性/70歳以上/韓国・朝鮮/大久保)
- 私は留学生の時から今まで20年近く住んでいますが、不便なことはなく、暮らしやすいです。周辺の日本人や外国人、同国の人たちみんなと仲良く暮らしています。(女性/40歳代/韓国・朝鮮/大久保)
- 地震の時の行動マニュアルがあればよいと思います。(女性/30歳代/韓国・朝鮮/大久保)
- 外国人の文化や生活にもっと目を向けていただけたらと思います。意見を互いに交換し、ともに改善していくため、外国人が参加できるカルチャー、スポーツ等のイベントをもっと開催していただけたらと思います。(男性/50歳代/中国/大久保)
- 日本は愛すべき国であり、新宿もまた多様な文化の共存する地域であると感じています。今後日本でしっかり学び、日中関係を良好なものとし、仲良く共存共栄していければと願っています。(男性/20歳代/中国/大久保)
- 外国人がより日本の社会に溶け込めるように、外国人による地域公共サービスを増やし、外国人が地域ボランティアとして貢献できるようにする。(女性/30歳代/中国/大久保)
- 外国人に対する設備やサービスを増やす。例えば家賃を少し下げ、外国人に対してもっと早く簡単に部屋を貸してもらえるようにしてほしい。そして、家に送付される手紙やその他の書類は、漢字でなく英語とひらがな・カタカナであってほしいと思います。(男性/30歳代/ネパール/笹筒町)
- 外国人に日本文化、社会規則をもっと知らせていただきたいです。また、新宿区に住んでいる、通っている外国人留学生への奨学金を増やしていただきたいです。(女性/20歳代/中国/柏木)
- 新宿区の活動には満足しています。ミャンマー語のパンフレットがあると本当に喜びます。他の区と違う活動なので外国人に対し特別に理解してくれる心に感謝します。(女性/60歳代/ミャンマー/柏木)
- 外国人が必ず利用する駅、ホテル、レストランといった所では英語で話がスムーズに通じるようにし、最低1人は日本語・英語の両言語ができるスタッフを置くようにすれば、この地域の外国人にとって、もっと魅力的なまちになるでしょう。(男性/20歳代/ネパール/柏木)
- 新宿区に住んでいると何かと便利です。どこへ行っても新宿区が一番便利だと思いますので文句はありません。(女性/20歳代/ミャンマー/落合第一)
- 新宿区は栄えたまちであり、行政機関の職員はまじめで、親切で優しく、仕事も効率的である。(女性/70歳以上/中国/落合第二)
- 日本に来てから6年目になり、通った日本語学校、専門学校は全部新宿区にあります。交通の便利さを感じてずっと新宿区に住んでいました。住民税は高いと感じましたが、その他不満はありません。(女性/20歳代/中国/落合第二)